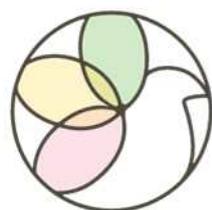
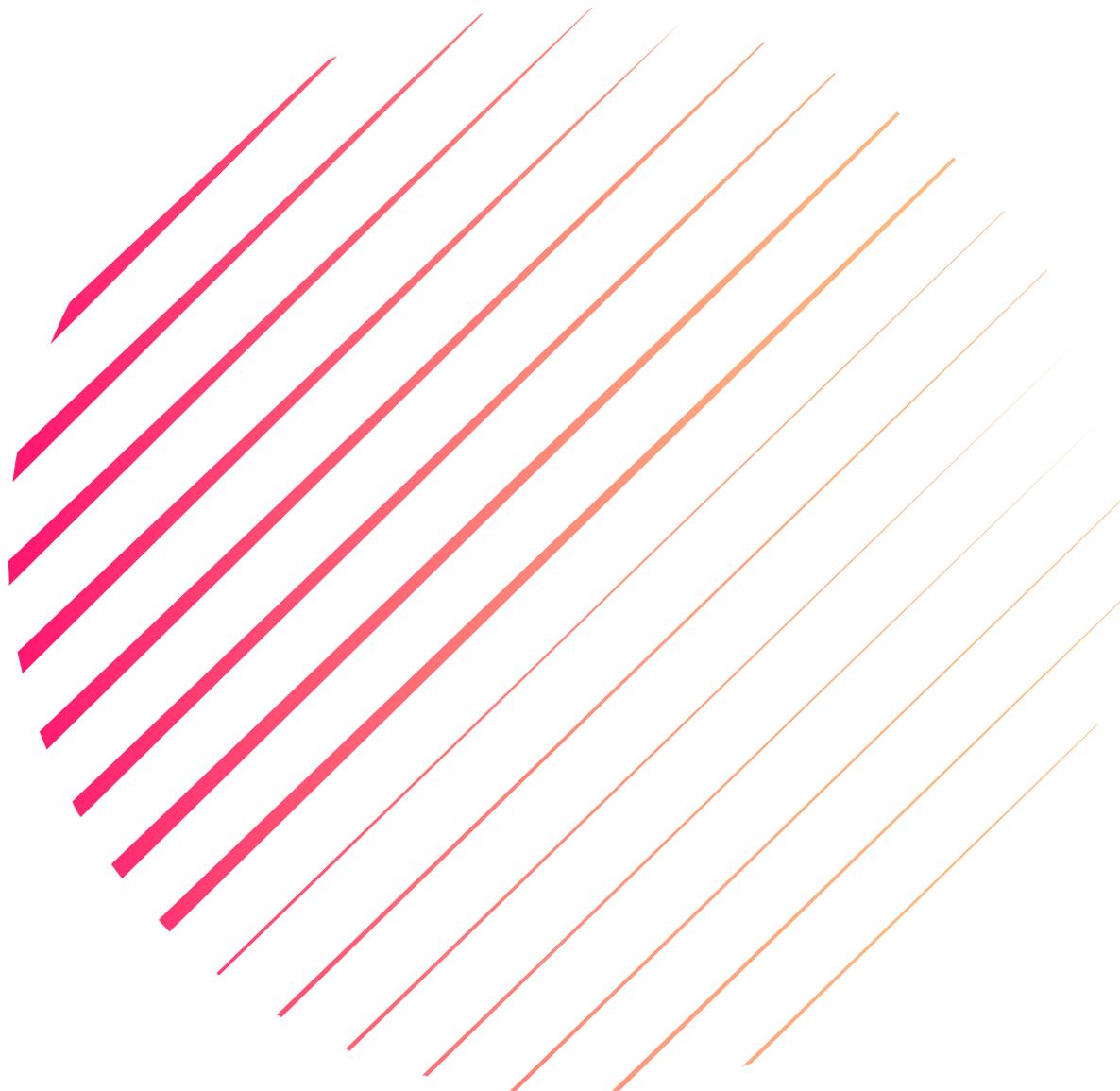


# 2024年度 事業報告書



社会福祉法人  
松江福祉公社

2024年4月1日～2025年3月31日

# 目次

## 【事業報告】

法人（本部含） .....	1
特別養護老人ホーム長命園.....	8
小規模多機能型居宅介護事業所 長命園やくものお家.....	20
こぼと保育園.....	32
放課後等デイサービスぽっぽ.....	45
こぼと小規模保育園 .....	57

# 令和6年度 事業報告

## 社会福祉法人松江福祉公社

### 1. 総括

令和6年度は医療・介護・障害福祉の報酬改定が同時に行われ、高齢者・障がい者福祉分野では自立支援・重度化防止に係る取り組み、人材確保対策と働き方改革、入所施設の医療機関との連携強化の動きがあった。高齢者、障がい者福祉分野共に3つの処遇改善加算が一本化され事務負担の軽減が図られた他、基本報酬や各加算要件も改定となり制度理解を深め対応した。保育分野では待機児童問題は近年改善されつつあるが、少子化と働き手世代の減少が重なり定員削減をする事業所もある。人事院勧告に基づく保育士等の人件費の改定率が、過去最大となる前年度比10.7%となり、保育従事者にとっては追い風となるが、福祉全体への効果は限定的である。物価や人件費の高騰が続く、全産業が人材獲得の競争相手になる現在では、社会福祉法人には困難な時代が続くと思われる。DX推進による効率化やスリム化によって生産性を向上することが重要であることは共通の認識だが、そのことがケアの質の向上だと言い換える国の舵取りには疑問が残る。

### 2. 法人本部運営報告

法人運営については、前年度に引き続き、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化、地域における公益的な取組に努めた。特に、経営組織のガバナンス強化については、法人本部会議の設置運営により法人の抱える課題に迅速、効果的に対処することができた。今後も執行体制の見直しを適宜行い、ガバナンス強化に努めたい。事業運営の透明性の向上、財務規律の強化については、安部税理士事務所による財務会計に係る態勢整備状況の点検支援により各事業所での適切な予算管理の推進、取引業者の契約内容見直し、法令遵守を基にした規則・規程の内部規範の整備に努めた。

法人全体での事業活動では、サービス活動収益は前年比11,982千円増の721,767千円となり、減価償却費等を含めたサービス活動増減差額は、前年比9,028千円増の35,968千円となった。

一方で、費用面では、昨今の物価高、エネルギー価格の高止まり、人件費コストの上昇など、アフターコロナ局面でも厳しい経営環境が続いている。特に光熱費のコスト上昇は大きく法人全体で前年比1,300千円の増加となった。

#### 【高齢者事業部】

期後半から感染症による入院・退所が続き稼働率が低下し、介護保険収入は前期比0.8%減の420,770千円となったが、前年度はコロナ関連の補助金が高額だったことを差し引けば、今期はプラス着地といえる。やくものお家では、感染症流行による閉所などもあったが、加算の見直しなどにより実質7期ぶりの黒字決算で終えることができた。

支出では、光熱費の増加が目立つ一方で、給食費の増加が抑えられているのは稼働率

低下によることが一因と考えられる。人件費は、処遇改善手当のみを前年比と対比した場合、長命園134%、やくも205%と大幅増だが人件費総額では、前年比長命園99.7%やくも96%いずれも前年比微減となっている。要因としては報酬改定により増額される処遇改善加算は増加傾向にあるが、退職や休職による職員確保は未充足の状態が続いているためと考えられる。職員確保の課題は経営上の深刻な問題であり、今後ますます厳しくなっていくと思われる。

### 【子ども事業部】

当期、保育園では0歳児の入所が少なく、前半9月時点の収入はこぼと保育園98%、こぼと小規模保育園88%と前年に比べて減少した。しかし、例年通り10月以降利用率の回復と、11月以降は人事院勧告による人件費改定率が過去最大の10.7%の引上げとなったことを受け最終的な保育事業収入は、こぼと保育園102%、こぼと小規模保育園113%といずれも増収増益となった。

放課後等デイサービスぽっぽでは、前年度から続く高い利用率と報酬改定、職員配置の見直しによる加算取得などを行い収入は前期比110%の増収となったが、人件費、事業費、事務費の全ての支出が前年度より10%以上増加したことにより、最終的には減益となった。

子ども事業部においても職員確保の問題は以前に比べて増してきている。収入増への施策と支出配分の見直しを適宜行っていくことが求められる。

## 3. 法人理事、監事、評議員

### (1) 役員、評議員（2025年4月1日現在）

役 職	定 数	氏 名
理 事	6	石野正亮（理事長）、錦織政代、安部且彦、大木理之、高橋智美、村上達子
監 事	2	五十嵐恵子、佐渡真理
評 議 員	8	安部紀正、吉儀和平、舟越美幸、荒木伸子、山崎芙美子、田部修二、富田恵子、小泉志乃婦

### (2) 就任、退任役員

【退任/就任】なし

### (3) 理事会開催状況

開催日	審議内容	審議結果
令和6年度第1回 令和6年5月23日	<b>【報告事項】</b> 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告 <b>【決議事項】</b> 第1号議案 2023年度事業報告及び計算書類等の承認の件 第2号議案 定時評議員会招集の件	可決  //
令和6年度第2回 令和6年8月7日	<b>【報告事項】</b> 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告	

	<b>【決議事項】</b> 第1号議案 2024年度第1次補正予算（案） 第2号議案 規程新設・改定の件	可決 一部否決
令和6年度書面決議 発出日：9月27日 決議日：9月27日	<b>【決議事項】</b> 第1号議案 長命園及びやくものお家 介護ソフト、パソコン機器等の入札の件	可決
令和6年度第3回 令和6年12月19日	<b>【報告事項】</b> 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告 <b>【決議事項】</b> 第1号議案 2024年度第2次補正予算（案） 第2号議案 規程改定の件	可決 一部修正による可決
令和6年度第4回 令和7年3月31日	<b>【報告事項】</b> 理事長の職務執行状況の報告 <b>【決議事項】</b> 第1号議案 役員等賠償責任保険契約の件 第2号議案 2025年度取引業者高額契約に係る承認の件 第3号議案 規程改定 第4号議案 2024年度第3次補正予算（案）承認の件 第5号議案 2025年度事業計画（案）及び当初予算（案）承認の件 第6号議案 長命園及びやくものお家 介護ソフト、パソコン機器等入札の件 第7号議案 評議員選任・解任委員辞任による後任委員の選任 第8号議案 苦情解決第三者委員任期満了による新委員の選任	可決 " " " " " " "

#### （4）評議員会開催状況

開催日	審議内容	審議結果
令和6年度定時評議員会 令和6年6月9日	<b>【報告事項】</b> ・2023年度事業報告及び監査報告 <b>【決議事項】</b> 第1号議案 2023年度計算書類及び財産目録等の承認の件	可決

#### （5）法人監事監査結果

令和6年5月16日に当法人監事による令和5年度事業報告及び計算書類の監査を実施し、適正処理の報告を受けた。

#### （6）法人主要事業経過報告

4月1日(月)	辞令交付式
4月24日(水)	2023 第4回安部税理士事務支援監査

4月25日(木)	第1回法人本部会議
5月2日(木)	安部税理士2023年度決算監査
5月16日(木)	法人監事監査
5月23日(木)	2024第1回理事会
6月9日(日)	2024年度定時評議員会
7月2日(火)	第1回施設長会
7月9日(火)	社福指導監査説明会
7月25日(木)	第2回法人本部会議
8月7日(水)	2024第2回理事会
8月8日(木)	2024第1回安部税理士事務支援監査
9月5日(木)	第3回法人本部会議
9月27日(金)	第4回法人本部会議
11月7日(木)	2024第2回安部税理士事務支援監査
11月14日(木)	第5回法人本部会議
12月25日(木)	労働局えるぼし認証交付式
1月27日(月)	第3回安部税理士事務支援監査
1月30日(木)	第6回法人本部会議
2月27日(木)	第7回法人本部会議
3月18日(火)	第8回法人本部会議
3月31日(月)	第4回理事会

(7) 研修会等参加状況

月日	研修名	用務地	参加者
2024/4/4	定額減税解説セミナー	WEB	佐々木、大瀧
2024/4/18	会計面における指導監査で多く見られる指摘事項	WEB	大瀧
2024/4/18	社会福祉法人向け人事労務ペーパーレス化セミナー	WEB	佐々木
2024/4/23	接遇・マナー研修	本部	新人・他職員 11名
2024/7/8	定年セミナー	WEB	佐々木
2024/7/9	令和6年度社福指導監査説明会・研修会	合庁講堂	石野・錦織・五十嵐・佐渡・佐々木
2024/7/16	人事評価セミナー	WEB	佐々木
2024/7/24	島根県社会福祉法人経営者協議会令和6年度総会	NW出雲	石野
2024/10/17	DX研修(安部事務所主催)	木次下熊谷交流センター	大瀧
2025/1/17	改正・育介休及び次世代育成支援対策推進法、フリーランス法等の周知及び説明会	メッセ	佐々木、佐藤、村上

2025/2/12	法人経営と法人本部機能交流会	WEB	佐々木
2025/2/18	介護と仕事の両立支援セミナー	H白鳥	大瀧

#### 4. 法人財務状況

##### ①法人借入金償還状況（元金のみ 単位:千円）

借入先	当初借入額	償還済額	当期減少額	借入残高	備考
(独法)福祉医療機構	102,700	38,188	6,912	57,600	こぼと保育園新園舎建設借入金

##### ②法人全体の純資産

2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
895,184千円	904,086千円	920,425千円	945,678千円

##### ③事業収入（サービス活動収益計）

2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
663,002千円	683,147千円	709,785千円	721,767千円

事業所別	年度/千円	2021	2022	2023	2024
	長命園	364,481	358,537	379,470	373,352
	やくも	39,123	44,317	44,741	48,090
	こぼと	173,279	183,067	173,936	175,822
	ぽっぽ	43,916	53,342	72,358	79,861
	小こぼと	40,807	43,827	39,248	44,640

##### ④経常増減差額率（経常増減差額÷サービス活動収益計）

2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
2.8%	4.2%	4.2%	5.4%

法人の収益性を表す基本的な指標。同規模法人の平均的数値は約2.5%程度。

事業所	年度/%	2021	2022	2023	2024
	長命園	6.0	2.9	4.9	3.7
	やくも	-22.3	-1.6	-9.5	1.8
	こぼと	4.9	9.6	1.3	5.4
	ぽっぽ	-0.6	7.4	12.8	12.2
	小こぼと	26.8	28.7	15.3	16.5

##### ⑤人件費比率（人件費÷サービス活動収益計）

2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
74.7%	74.8%	74.6%	73.8%

本指標の値が収益性に大きく影響します。安定的経営のためには固定費に関する比率である本指標の値を適宜分析する必要があります。

事業	(%)	2021	2022	2023	2024
	長命園		70.0	73.6	71.1

	やくも	96.6	80.6	87.2	77.6
	こぼと	74.5	71.3	78.2	74.8
	ぽっぽ	81.4	78.1	75.7	75.2
	小こぼと	61.8	63.3	74.9	74.6

⑥事業費比率（事業費÷サービス活動収益計）

2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
13.4%	13.7%	13.3%	13.2%

事業費は、給食や介護用品など、利用者へのサービス提供に直接要する経費を表す変動費。

	(%)	2021	2022	2023	2024
事業所	長命園	16.5	18.1	17.0	17.5
	やくも	16.4	14.2	15.5	13.6
	こぼと	9.2	8.6	9.4	9.0
	ぽっぽ	9.0	8.5	6.4	7.3
	小こぼと	4.8	4.3	5.1	4.9

⑦事務費比率（事務費÷サービス活動収益計）

2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
6.1%	5.4%	5.3%	5.0%

事務費は、修繕費、業務委託費、賃借料など、施設運営に要する一般管理費的な経費（人件費を除く。）を表す。

	(%)	2021	2022	2023	2024
事業所別	長命園	5.2	4.5	5.2	4.7
	やくも	4.3	3.6	3.8	3.5
	こぼと	6.2	5.7	6.1	6.3
	ぽっぽ	9.0	5.8	4.0	4.0
	小こぼと	6.4	4.5	4.4	4.0

⑧流動比率（流動資産÷流動負債）

2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
576.0%	550.5%	475.0%	626.0%

本指標は、短期的な支払能力を判定する観点から、一般的に本指標の値が200%以上であることが望ましいと考えられる。

	(%)	2021	2022	2023	2024
事業所別	長命園	896.6	909.5	743.6	986.3
	やくも	362.0	1782.6	574.4	1537.8
	こぼと	214.9	232.1	166.8	173.9

	ぽっぽ	137.1	88.1	126.2	<b>263.3</b>
	小こぼと	1072.0	1114.6	793.2	<b>619.4</b>

⑨純資産比率（純資産÷総資産）

2021年度	2022年度	2023年度	<b>2024年度</b>
85.5%	86.4%	86.6%	<b>88.7%</b>

本指標の値が高いほど負債の支払負担が小さく、長期持続性が高いことを意味する。同規模法人の平均的な数値は約70%程度。

事業所別	(%)	2021	2022	2023	<b>2024</b>
	長命園	95.1	95.1	93.8	<b>95.3</b>
	やくも	94.9	99.2	97.4	<b>99.0</b>
	こぼと	74.6	76.4	76.7	<b>78.4</b>
	ぽっぽ	-20.0	-2.1	34.3	<b>64.1</b>
	小こぼと	91.9	95.3	95.2	<b>94.9</b>

---

# 特別養護老人ホーム長命園

2024年度事業報告

---

# 令和6年度 特別養護老人ホーム長命園 事業報告

## 総括

令和6年度稼働率 特養 91.9% 短期入所 59.9%

特養本体については利用者に新型コロナ感染者は発生しなかったが11月下旬から12月上旬にかけて利用者、職員にインフルエンザの感染者が多数発生した。令和2年から続く新型コロナ対応の経験からゾーニング等の感染対策を迅速に行ったが複数フロアの利用者、職員で同時期に感染者が発生したことや多床室内での拡大を防ぐ事ができなかった。潜伏期間を含め感染拡大が起きたと考えられ、標準予防策の見直しと徹底が課題として残った。この結果として入院者や看取りの方の退所が重なり12月以降では稼働率を大きく下げる事となった。短期入所については定期での利用予定であった利用者の入院があり目標まで稼働率を伸ばすことができなかった。

人材確保について、近年の近隣養成校の生徒数減少や働き手世代の減少により速やかな欠員補充が困難となっている。慢性的な欠員が事業全体の運営に影響を及ぼす結果となった。既存の勤務形態にとらわれない求人対策を法人本部、やくものお家と連携し取り組んでいる。また、開園40年以上が経過した施設更新の取り組みとして候補地、施設像の検討を重ねた。物価高騰が続くなか、社会状況を注視し施設更新の取り組みを続ける。

## 各部門報告

### 介護部門

令和6年度は感染症対策の緩和により、各フロアで面会を実施し利用者が普段過ごしている雰囲気の中で家族と関われるようになった。現場の介護職員も直接家族と関わりが増える中で、普段の様子等の報告や家族の思いを知る機会を持つことができた。今後も個々の利用者のニーズに応え生活の質の向上を目指していく。

行事については、職員と利用者のみで行うものについては、以前のように集まって行うことができたが、感染症の懸念もあり地域交流の企画をすることができなかった。今後の課題としては、以前のように外出や地域交流を増やしていき利用者の生活に楽しみを提供していけるよう他部署とも協力しながら企画していきたい。

誤配薬については、例年より多く発生した。都度医務室とも話し会って誤配薬をなくすことが出来るよう取り組んでいく。一つ一つの事故原因について分析し、適切な対策を取る必要がある。ケアワーカーは直接薬を提供するため、誤配薬防止のスローガン通りに注意して薬の提供に努めたい。

## 看護部門

申し送りや普段の関わりから利用者の状態変化を早めに察し、嘱託医に報告することで、臨時の内服薬の処方や処置、必要時に医療機関を受診することができた。

尿路感染に関しては入院されることもあったが、予防の取り組みにより水分摂取、陰部洗浄を行った結果、昨年より減少傾向であったが、中には状態の悪化のため入院に至るケースもあった。同じ方が繰り返し入院されることも多くあったため、今後も継続して予防対策を行う。

11月下旬から園内で階をまたいだ複数のグループ、部署で同時期に利用者と職員にインフルエンザの感染者が多数発生した。迅速な検査と内服にて感染拡大に努めたが、12月には状態悪化で入院者が多数あった。流行時、予防接種前ということもあり感染拡大、状態の悪化に繋がったと考えられる。次年度から、流行前に予防接種が完了できるように予定を組みたい。職員がウイルスを媒介したと思われるため、医務室として、利用者だけでなく職員に対しても普段の感染予防対策ができているかの確認と指導を行う必要があると感じた。

## 給食部門

### ① 栄養管理部門

- ・ 栄養マネジメント業務を多職種連携で行い、利用者ひとり一人の栄養状態に合わせた個別対応を実施することができた。
- ・ 療養食を提供することにより、持病の悪化を防ぐことができた。

### ② 給食管理部門

- ・ ランチバイキングを2回実施した（8月、1月）。
- ・ 「茶房 長命庵」を2回実施した（5月、7月）。
- ・ 選択食を2回実施した（4月、11月）。
- ・ 開園記念、敬老祝賀会にてお祝い膳を提供することができた。
- ・ 季節毎のイベントを介護部門と協力して実施することができた（ちまき 6月、さんま焼き 11月、そば打ち 12月、2月）。
- ・ 給食委員会を合同で炊き出し訓練を実施することができた（11月）。
- ・ 毎月「お楽しみ昼食」を実施した。

## 生活相談員

「長命園入所基準」に基づいて、入・退所検討委員会を開催、 公平性・透明性・緊急

性を図るため、入居評価基準に基づき判定し、27人の新入所者を迎えた。3月末現在平均介護度は4.10、介護度ⅣとⅤは全体の約9割を占めている。

今年度の入院については、平均入院者数は10名と例年に比べてもかなり多くの入院者が出た。特に11月後半から12月中頃まで、園内でインフルエンザが流行した影響もあり、ひと月の間に12月は19人が入院するなど、ベッド空き状況が長期に渡ってしまった。

新規の申し込みがほとんどなく、都度、病院のSWに連絡を取って利用者の獲得に努めてきたが、3月現在でも申し込み状況に変化はない。今後も早めに病院や家族に連絡し情報収集に努め、退所後の空所期間を最小限に心掛けたい。

R6年度の退園総数は26人となっている。

## 介護支援専門員

年4回の見直し、介護保険更新後アセスメント、状態変化のある利用者の状況や体調に応じた（退院時等）ケアプランを都度作成した。また、意向を本人、面会に来られた家族に直接聞き、来られない家族には定期的に連絡し、思いに沿ったプランの作成に努めた。看取りの方については、その人の終末期に寄り添えるプラン内容を立案できるよう情報収集し、家族、他職種との連携したプランの作成を心掛けた。

その人らしい生活に近づけるように状態の維持・向上に努め「利用者主体、自立支援、家族支援、専門職の連携」を忘れず、今後、家族・地域を含めたケアを提供できるよう多職種と連携しプランニングする。

## 短期入所部門

<実績内容>

- ① 月平均延べ人数 218.6人（対前年比：17.8人↑）
- ② 平均介護度 3.21（前年度：2.80）
- ③ 1日平均利用者数 7.2人（対前年比：0.6人↑）
- ④ 稼働率 59.9%（対前年比：4.9ポイント↑）
- ⑤ 介護度別割合（単位：%）

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
0	0	0	18.3	53.9	16.2	11.6

<事故報告書>（ヒヤリハットを含む）

計29件（尻餅8件、転倒・転落12件、服薬関連5件、負傷1件、危険行為2件）

<利用者数について>

今年度は新型コロナウイルス感染の短期入所への影響はほぼ鎮静化してきており、稼働率は徐々に回復している。一方で利用者の介護度は上昇しており、利用者の体調の急変で

の入院により、予定していた利用のキャンセルが発生することも増加してきている。

## 事務部門

事務精度の正確性、業務効率の向上に務めました。誤りも発生したため、引き続き正確性、業務効率に務め、誤りが発生しないよう取り組んでいきます。

各部署間で情報を共有すること心がけましたが、漏れがないようにしていくためには引き続き取り組んで行く必要があります。

今年度は年度当初は順調に推移しておりましたが、12月の入院、退所者の増による影響から延べ利用者数は前年比-549人、入院者数は前年より7名減となりましたが、利用率は91.91%と前年を下回る結果となりました。入院者数は減少していますが、利用率は下回っていることから待機者の減少による影響が出ており、喫緊の課題です。

依然として物価高の状況は続き、光熱費、食品、物品等は高い水準で推移しています。これらの経費を削減は難しい状況であり、料金の見直しも実施していく必要があります。

オンライン研修が中心となり、欠員の問題もあり外部研修への参加が減少しており、外部研修への参加も進めていきます。

## 各実績表

管理部会議	4/2 4/30 6/3 7/1 8/2 9/3 9/30 11/5 1/7 2/4 3/4
主任会議	4/3 5/1 6/4 7/3 8/7 9/4 10/2 11/6 1/8 2 /5 3/8
ワーカー会議	5/22 8/28 9/11 10/23 2/19 3/26
医務会議	1/27 2/27
給食会議	4/8 5/8 6/10 7/15 8/18 9/8 10/6 11/4 1/ 12 2/10 3/10
グループ会議 2南	4/10 5/8 6/12 7/10 8/14 9/11 10/9 11/13 12/11 1/15 2/12 3/12
2東	4/16 5/21 6/18 7/16 8/20 9/17 10/15 11/19 12/17 1/21 2/18 3/18
3南	4/12 5/9 6/14 7/18 8/22 9/19 10/17 11/21 12/19 1/16 2/20 3/19
3東	4/12 5/9 6/14 7/12 8/9 9/13 10/11 11/8 12 /13 1/10 2/14 3/14

## 委員会

身体拘束適正化委員会	4/3 7/3 10/2 1/8
事故防止委員会	6/4 1/8
人権擁護・虐待防止委員会	4/3 7/3 9/4 10/2
感染対策委員会	5/1 8/7 11/6 2/5
BCP 委員会	9/4 3/5
業務改善委員会（定例）	3/5
業務改善委員会（随時）	5/10 5/22 6/10 6/20 7/5 7/29 8/15 9/4 9/13 10/10 11/4 11/6 1/8 1/15 2/12 3/7 3/26
衛生委員会	4/5 5/2 7/5 8/2 9/6 10/4 11/1 1/ 10 2/7 3/7
学習委員会	5/7 6/5 7/2 9/3 11/5 2/4
給食委員会	4/17 5/15 6/19 8/21 10/16 11/20 2/ 19 3/19
褥瘡委員会	4/24 5/22 6/28 7/31 8/28 9/18 10/23 11/20 12/18 1/15 1/22 2/19
排泄委員会	4/9 5/14 6/11 7/9 8/13 9/10 11/12 3/11
身体拘束廃止委員会	身体拘束対象者なし
入退所検討委員会	7/24 7/31 8/5 11/5 12/13 1/22

## 研修

実施月	研修内容
4月	資質向上研修 チームでの仕事の進め方
5月	感染症・食中毒の予防及びまん延防止に関する研修① 生産性向上に関する研修
6月	事故発生又は再発防止に関する研修①
7月	認知症及び認知症ケアに関する研修①
8月	倫理及び法令遵守に関する研修
9月	感染症及び災害に係る業務継続計画のための研修①
11月	精神的ケアに関する研修
12月	ターミナルケアに関する研修
1月	緊急時の対応に関する研修

3月	介護現場で気をつけたい個人情報、プライバシー保護に関する研修
4～9月	正しい姿勢 褥瘡予防（介護 看護） 福祉車両安全運行研修（事務） 衛生・準備（給食）
10～2月	身体拘束の排除・高齢者虐待防止に関する研修② 感染症及び災害に係る業務継続計画のための研修② 認知症及び認知症ケアに関する研修② 感染症・食中毒の予防及び蔓延防止に関する研修② 事故発生又は再発防止に関する研修②

## 訓練

避難訓練	7/3 10/9 新人9/2 10/1 11/1
BCP 訓練	4/10 ガスバルク炊き出し訓練 9/2 職員安否確認訓練 3/5 土砂災害訓練
感染症	10/23 感染マニュアル訓練

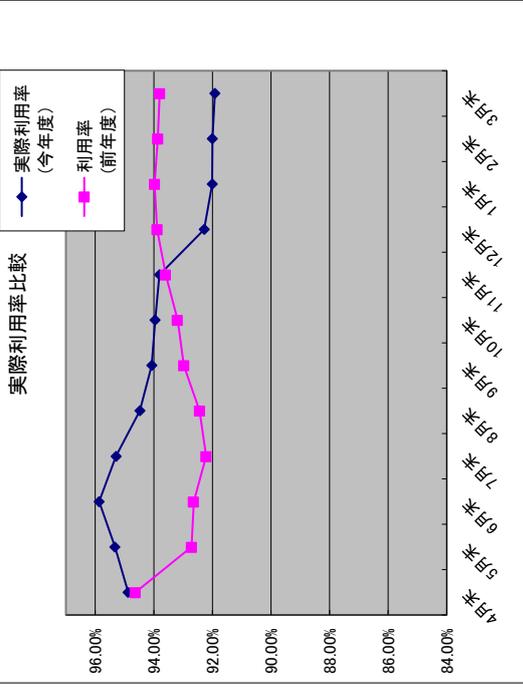
## 行事

実施月	行事内容
4月	お花見 観音供養 選択食
5月	茶房長命庵
6月	開園記念 笹巻
7月	茶房長命庵
8月	盆法要 ランチバイキング
9月	彼岸法要
10月	敬老祝賀会
11月	さんま焼き 選択食
12月	クリスマス会 蕎麦打ち もちつき
1月	互礼会 とんどさん ランチバイキング
2月	節分
3月	彼岸法要

特養入所

80人定員の

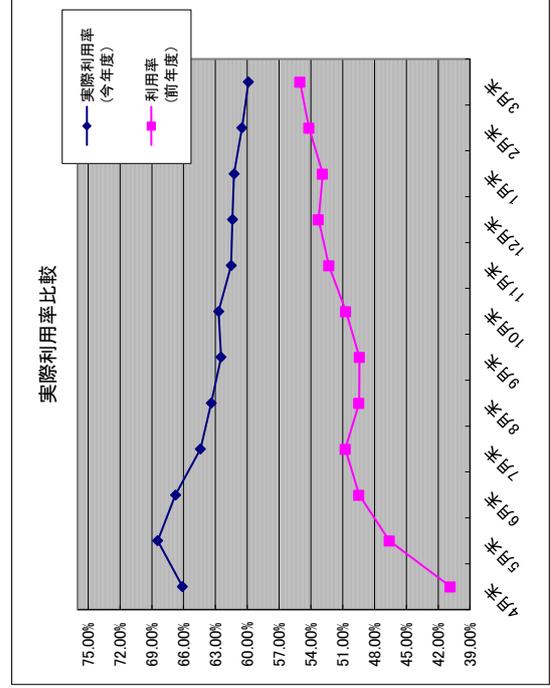
80	日数	累計日数 ①	①*80 床=②	②*93.6%	当月在 園実数	累計在 園実数 ③	全国平均 値との人 数差異	1日平均在 園人数 累計(人)	実際利用率 (今年度)	利用者数 (月末)	入院者数 (月末)	利用率 (前年度)	前年利 用者数 (月末)	前年入 院者数 (月末)
4月末	30	30	2,400	2,246	2,277	2,277	31	75.9	94.88%	79	9	94.63%	78	8
5月末	31	61	4,880	4,568	2,375	4,652	84	76.3	95.33%	81	6	92.70%	80	15
6月末	30	91	7,280	6,814	2,327	6,979	165	76.7	95.87%	80	6	92.64%	78	10
7月末	31	122	9,760	9,135	2,321	9,300	165	76.2	95.29%	80	11	92.21%	78	12
8月末	31	153	12,240	11,457	2,264	11,564	107	75.6	94.48%	80	14	92.43%	80	12
9月末	30	183	14,640	13,703	2,208	13,772	69	75.3	94.07%	79	7	92.97%	79	10
10月末	31	214	17,120	16,024	2,313	16,085	61	75.2	93.95%	80	6	93.18%	80	10
11月末	30	244	19,520	18,271	2,226	18,311	40	75.0	93.81%	80	14	93.59%	80	8
12月末	31	275	22,000	20,592	1,991	20,302	▲ 290	73.8	92.28%	76	19	93.88%	80	7
1月末	31	306	24,480	22,913	2,221	22,523	▲ 390	73.6	92.01%	73	6	93.97%	80	11
2月末	28	334	26,720	25,010	2,059	24,582	▲ 428	73.6	92.00%	77	11	93.86%	80	15
3月末	31	365	29,200	27,331	2,257	26,839	▲ 492	73.5	91.91%	77	13	93.79%	78	11



短期入所

12人定員の

12	日数	累計日数 ①	①*12 床=②	②*82.8%	当月利 用実数	累計利 用実数 ③	全国平均 値との人 数差異	1日平均 利用人数 (人)	実際利用率 (今年度)	利用者数 (月末)	利用率 (前年度)	前年利 用者数 (月末)
4月末	30	30	360	298	238	238	▲ 60	7.9	66.11%	17	40.83%	14
5月末	31	61	732	606	263	501	▲ 105	8.2	68.44%	18	46.58%	15
6月末	30	91	1,092	904	228	729	▲ 175	8.0	66.76%	17	49.45%	16
7月末	31	122	1,464	1,212	214	943	▲ 269	7.7	64.41%	16	50.75%	15
8月末	31	153	1,836	1,520	221	1,164	▲ 356	7.6	63.40%	14	49.46%	16
9月末	30	183	2,196	1,818	208	1,372	▲ 446	7.5	62.48%	15	49.41%	16
10月末	31	214	2,568	2,126	238	1,610	▲ 516	7.5	62.69%	16	50.70%	17
11月末	30	244	2,928	2,424	191	1,801	▲ 623	7.4	61.51%	13	52.29%	15
12月末	31	275	3,300	2,732	225	2,026	▲ 706	7.4	61.39%	14	53.27%	16
1月末	31	306	3,672	3,040	223	2,249	▲ 791	7.3	61.25%	14	52.89%	13
2月末	28	334	4,008	3,319	176	2,425	▲ 894	7.3	60.50%	11	54.17%	17
3月末	31	365	4,380	3,627	198	2,623	▲ 1004	7.2	59.89%	11	55.02%	17



# 2024年度事故報告

R6. 4~

NO	月日	時間	氏名	種別	内容	長命関	NOは受付順	対策	A入院	B受診	C軽度
						その他			程度	介護度	
1	2024/3/28	18:40	1	その他	家族より帰宅予定だが、帰ってこないという入電あり			ショートステイ予定とサービス提供表を照らし合わせて再チェックする	C		1
2	2024/4/4	15:10	1	d剥離	離床時30cmの剥離を左前腕部に見つける。			アームカバーの装着。皮膚状態の観察。	C		4
3	2024/4/4	16:40	1	d剥離	注入物を半分用意していたが、気づかず廃棄する。			取りかかると前に確認する。	C		4
4	2024/4/7	7:05	1	b転倒	センサー鳴り訪室すると尻餅をついている。			センサーマットの位置を検討する。	C		3
5	2024/4/11	5:30	1	その他	排便表に排便があったことが記入されていなかった。			排便表と排泄表の両方を記入確認する。	C		4
6	2024/4/12	1:10	1	e打撲	訪室時、緩和マットの上で降りており、左前額部に腫脹あり			柵、立位バーに保護カバー設置する。	C		4
7	2024/4/12	13:10	1	b転倒	センサー鳴り訪室すると、自室洗面所前で転倒している。			不穏なときはワーカーが側で見守りする。	C		4
8	2024/4/15	17:45	1	a尻餅	ドン、と音がしたため訪室するとベッドサイドで尻餅をついている。			足の痛みがある時はセンサーマット使用する。	C		3
9	2024/4/18	9:30	1	b転倒	訪室すると、車椅子から落ちて転倒しているのを見つめる。			職員に声をかけてから帰室してもらう。	C		4
10	2024/4/24	17:00	1	その他	体圧分散マットが、入荷後放置されていた。			入荷された物品が数日置いたら連絡したか確認する。	C		
11	2024/4/26	3:50	1	a尻餅	センサーあり、訪室するとカーテン前で転倒している。			歩行者、PTイレの位置を変更する。	C		3
12	2024/4/28	5:10	1	a尻餅	テレビ台と車椅子の間で尻餅をついている。			環境整備について本人と話しながら行う。	C		3
13	2024/4/29	20:10	1	b転倒	廊下中央に本人に気づけてもらおうと車椅子を動かす前めりになっており転倒。			前めりになっていないことがあるので体を変えて移動する。	C		3
14	2024/5/1	11:45	1	h誤嚥	夕食時、食事中に誤嚥する。			覚醒状態の確認、食事形態の変更。	A		5
15	2024/5/5	9:00	1	i骨折	バット交換時、腰の痛みの訴えあり、胸椎骨折。			離床時間、移乗方法の変更。	B		5
16	2024/5/9	9:00	1	i骨折	車椅子座位時、腰部に痛みあり、圧迫骨折の診断。			車椅子の変更、離床時間の変更	B		4
17	2024/5/12	11:00	1	d剥離	離床時、右下腿内側に2.3cmの剥離あり。			臥床時、クッションの使用、介助の際に注意する。	C		4
18	2024/5/12	15:25	1	b転倒	テーブル下に潜り込むような形で転倒している。			思いがけない行動に注意する。	C		3
19	2024/5/15	11:00	1	b転倒	巡視時、床で胡坐をかいている。			緩和マットの位置を変更する。	C		5
20	2024/5/16	11:00	1	トランプ	バルーンカテテルが抜けていることに気づく。			ルートを確認してから移乗を行う。	C		5
21	2024/5/16	17:45	1	誤配薬	夕食後薬が薬箱に入ったままになっている。			注入台に表を作って貼る。	C		5
22	2024/5/18	7:30	1	e打撲	額に瘤ができているのを見つめる。			柵カバー作成し保護する。	C		4
23	2024/5/18	12:30	1	d剥離	左足くるぶしに2cmの剥離あり。			足がベッド上重ならないようクッションを挟む。	C		5
24	2024/5/20	4:50	1	d剥離	排泄介助時、目を離した間にベッドから転落。			そばを離れる際は必ず柵をした状態で離れる。	A		5
25	2024/5/28	15:00	1	その他	入浴後に貼り薬を貼ろうとしたらなくなっている。			使用するときに袋から出すようにする。	C		2
26	2024/6/4	17:15	1	その他	食事作成工程の際おかずが凍った状態で誤嚥料を見たら凍りなり、そのまま提供した。			レンジ通りに作る。	C		
27	2024/6/6	10:00	1	d剥離	入浴後、車椅子移乗の際車椅子が当たり下肢を剥離させてしまう。			立位不安定なので、他職員を呼ぶ。	C		3
28	2024/6/7	8:00	1	その他	食器の中から髪の毛が出てきた。			ヘアキャップを正しくかぶる。異物混入がないか確認する。	C		4
29	2024/6/10	22:15	1	誤薬	ユニットの袋に15時の薬が落ちていた。			食器棚の袋に入れずそのままやりやうすいよう置く。	C		4
30	2024/6/11	13:00	1	e打撲	左下肢に腫れあり、右大腿部に水疱を見つめる。			車椅子移乗時は下肢が物に当たらないよう気をつける。	B		4
31	2024/6/11	8:45	1	誤薬	配薬の際、他利用者の薬を記って、服薬させてしまう。			食札と名前の確認、声出し確認の徹底。	C		5
32	2024/6/16	22:30	1	b転倒	床に右側を下にして転倒している。			ベッド周辺環境整備を行う。	C		2
33	2024/6/25	3:10	1	d剥離	汚染の着替えの際、腰に白いポリマーを取ろうと拭くと、皮下出血が出来る。			抵抗が強いときは時間を置く。二人介助を行う。	C		5
34	2024/6/28	9:30	1	d剥離	薬座日でない日に座薬を使用していた。			記入間違いを防ぐため記入後、再度確認する。	C		5
35	2024/7/14	6:40	1	d剥離	ベッド移乗の際ふくらはぎを剥離させてしまう。			常時レッグウォーマー使用。車椅子の部品に注意する。	C		3
36	2024/7/17	10:00	1	e打撲	右上肢に皮下出血あり、肩は黄色く変色している。			体検希望時はコールを押し、トレンスファアシートを使用する。	B		5
37	2024/7/18	11:00	1	e打撲	入浴後、右手手背に皮下出血あり。			着脱の際には注意する。	C		5
38	2024/7/18	13:30	1	その他	肩の注入を忘れたことに気づき、注入を遅れさせる。			医務室にメモを書く。忘れた際は他職種に報告する。	C		5
39	2024/7/24	10:00	1	誤薬	肩の薬のBOXに薬が残っていた。			配薬後、BOX内を確認する。	C		4
40	2024/7/24	21:10	1	b転倒	ホールで仰向けになり転倒している。			東南で連携して見守りを行う。	C		4
41	2024/7/24	11:40	1	誤配薬	夕食時、夕食の薬が設置されていた。			薬の色をチェックして入れ終わった後に再度確認する。	C		2
42	2024/7/25	10:00	1	a尻餅	トイレの前で尻餅をついている。			トイレに向かっていたらすぐに対応する。	C		4
43	2024/7/30	5:30	1	d剥離	離床時、右手首に皮膚剥離あり。			アームウォーマー着用する。	C		4
44	2024/8/17	10:00	1	誤薬	排便が起床時あるも便表に記載忘れ、洗腸をしてしまう。			パソコン当番が便表に記載漏れがないかを確認する。	C		5
45	2024/8/18	7:00	1	a尻餅	音がして行くも尻もちをついており、靴が脱げている。			本人に合った靴の購入。	C		5
46	2024/8/20	15:00	1	d剥離	入浴時、脱衣後に右肘に4cmの剥離あり。			皮膚が弱いため介助時、摩擦に注意する。	C		4
47	2024/8/27	17:10	1	d剥離	左手の人差し指に剥離あり。			動きが多いときには周囲に物が無いことを確認する。	C		5
48	2024/8/27	22:40	1	c転落	巡視時、ベッド下に頭が潜り込んだ状態で見つめる。			柵の位置を変更し、ベッドの高さを最低床にする。	C		4
49	2024/8/30	16:15	1	d剥離	口腔ケア時、手を口の中に入れて抵抗あり。			拒否が強いときは無理しない。時間を置く。	B		4
50	2024/8/31	7:20	1	e打撲	トイレより呼ぶため、行くも顔に右眉に痣がある。			トイレに向かわれたら付き添う。	C		4
51	2024/9/3	0:05	1	a尻餅	センサーあり、訪室するとPTイレとバーの間で座っている。			臥床時は靴を脱いでもらう。	C		4
52	2024/9/4	9:30	1	トランプ	車椅子の左アームレストが壊れているのを見つめる。			全グループに同タイプの車椅子の使用法を周知する。	C		4
53	2024/9/5	7:55	1	誤薬	他利用者の薬を内服させてしまう。			配膳前に顔と名前の確認する。	C		4
54	2024/9/5	14:10	1	i骨折	特浴にて脱衣時、肘を動かした際に音がして拘縮が緩くなる。			衣類を浴衣に変更。着脱時、拘縮部位を動かす時は注意する。	B		5
55	2024/9/6	10:10	1	a尻餅	車椅子より滑り落ち、フットレストに座っている。			座布団の変更、ブレーキの確認。	C		5
56	2024/9/11	10:30	1	トランプ	受診予定も、来ていないと病院から連絡あり。			予定表がない場合は、確認した時点で受診記録を書く。	C		4
57	2024/9/13	15:00	1	d剥離	爪切りの際、左手小指の先を5mm切ってしまう。			爪切りは皮膚に当たらないよう慎重に行う。	C		3
58	2024/9/17	15:20	1	a尻餅	ディルムで尻もちをついており、靴が脱げている。			本人が楽しめるものを提供。見守りの徹底。	C		4
59	2024/9/21	18:30	1	e打撲	頭頂部に内出血跡あり。			ベッド上多動な時はワーカー室で過ごしてもらう。	C		4
60	2024/9/20	12:00	1	トランプ	薬がないことに気づき受診日を調べていたら、当日が受診日であった。			受診予定を聞いた時にすぐに事務所に受診願いを出す。	C		4
61	2024/9/24	8:50	1	d剥離	産薬を入れる際に本人が反抗し、握って手が当たり股部に傷がついてしまう。			立位不安定時は居室で座薬を入れる。	C		4
62	2024/9/24	13:40	1	b転倒	トイレより呼ぶため行くも、車椅子より降りて床で横になっている。			トイレに向かわれたら介助を付き添う。	C		3
63	2024/9/25	14:40	1	e打撲	移乗時、右膝に痛みの訴えあり。			車椅子の変更、普段と椅子が違うときは全身状態の確認を行う。	B		4
64	2024/9/28	17:35	1	a尻餅	トイレ介助時、バーから手を放し尻もちをつく。			すぐに支えられる位置にて介助を行う。	C		4
65	2024/10/2	8:35	1	トランプ	歯科往診の対象者にあげた予定のだったが、連絡しなかった。			家族の確認が取れたらすぐに報告する。	C		4
66	2024/10/2	10:00	1	その他	寿命者だったが、受診の予定を入れてしまい式典に参加できなかった。			敬老会の当日に受診を入れない。	C		5
67	2024/10/6	8:30	1	a尻餅	朝食後、車椅子からずり落ちる。			車椅子の角度調整、クッションの変更。	C		4
68	2024/10/8	11:00	1	e打撲	左足背に皮下出血あり、膝から下腿にかけても黄色くなっている。			移乗方法の統一、車椅子からのずり落ち防止のためクッション変更	B		5
69	2024/10/9	20:20	1	c転落	ベッド下の床で横になっている。			三点柵にて対応する。	C		5
70	2024/10/12	16:10	1	a尻餅	ベッドと筆筒の間で横になっている。			リモコンの位置の変更。緩和マット使用。	C		3
71	2024/10/15	10:30	1	その他	シャワーホースに引っ掛かり転倒。			シャワーホースの位置を確認。間隔を置いて介助する。	C		
72	2024/10/18	5:00	1	d剥離	バット交換時、左腕に1cmの剥離あり。			拒否があるときは時間を空ける。	C		3
73	2024/10/22	4:10	1	e打撲	他利用者センサー対応中に居室入り口で転倒している。			床にクッションマットを使用する。	C		4
74	2024/10/22	11:45	1	b転倒	シートの下のシンクの前で転倒している。			動かれる前に靴がきちんとはけているか確認する。	C		3
75	2024/10/25	8:00	1	d剥離	朝食介助中、スプーンで唇下に皮下出血を作ってしまう。			プラスチックスプーンに変更。口がつかないときは無理しない。	C		5
76	2024/10/26	20:30	1	a尻餅	居室入り口で座っている。			不穏時は思わぬ行動をされるので注意する。	C		3
77	2024/10/26	23:55	1	a尻餅	センサーにて訪室するとベッドからずり落ちている。			臥床の際はなるべく柵のほうで横にならないよう促す。	C		3
78	2024/10/29	7:00	1	トランプ	ベッド上、バルーンが抜けているのを見つめる。			バルーンのルートの位置について検討する。	C		5
79	2024/10/30	11:00	1	誤薬	夕食後薬が薬箱に残っていた。			全員の配薬後、薬が残っていないか確認する。	C		3
80	2024/10/31	11:15	1	誤薬	夕食後薬が薬箱に残っていた。			全員の配薬後、薬が残っていないか確認する。	C		5
81	2024/11/4	14:20	1	e打撲	肩の痛みあり、確認すると左肩から腕にかけて皮下出血あり。			体換の際に注意する。	B		3
82	2024/11/7	9:30	1	d剥離	車椅子からシャワーチェアに移動の際左下肢を剥離する。			拒否が強いときは無理せず、時間や日にちを変えてみる。	C		3
83	2024/11/9	14:30	1	a尻餅	訪室時、緩和マットの上で寝ている。			右側の柵をベッド中央に設置する。	C		5
84	2024/11/13	13:50	1	c転落	ベッド下で布団にくるまって横になっている。			ストッパー付きの柵に変更する。	C		4
85	2024/11/21	20:00	1	a尻餅	他利用者対応中、そばを離れる間に車椅子から降りている。			そばを離れるときは他の職員に声をかける。	C		4
86	2024/11/22	15:30	1	トランプ	ベッドギャッジアップした際腰痛の訴えあり。			ギャッジアップの際は体の位置に注意する。	C		5
87	2024/11/22	8:15	1	c転落	訪室時、ベッド下で横になっている。			ベッド最低床、緩和マット使用する。	C		4
88	2024/11/22	12:35	1	e打撲	ベッド移乗時、柵に頭をぶつけてしまう。			慎重に移乗介助を行う。	C		4
89	2024/11/27	2:30	1	b転倒	居室より呼ぶ音がし、行くも床で尻餅をついている。			体調不良の時はセンサーマットを使用する。	C		4
90	2024/11/29	10:35	1	a尻餅	車椅子上、靴を取ろうとして尻餅をつく。			臥床時、緩和マットの使用。	C		3
91	2024/11/30	12:00	1	a尻餅	ベッド下で横になっている。			体調が安定しないときは端座位でなく、車椅子に乗ってもらう。	C		3
92	2024/11/30	14:45	1	b転倒	ベッドサイドでセンサー上で横になっている。			センサーマットの位置を変える。	C		3
93	2024/12/2	10:30	1	a尻餅	センサーマット上尻餅をついている。			状況に応じてマットの位置を変更する。	C		3
94	2024/12/3	11:00	1	e打撲	センサー一回のためセンサーずらして対応中に左腕に皮下出血あり。			柵カバーが外れていないか確認する。	C		5
95	2024/12/4	7:55	1	その他	血糖値を計る前に朝食介助してしまった。			見える位置に注意事項が確認できるようにする。	C		4
96	2024/12/4	12:00	1	a尻餅	訪室すると緩和マットに座っている。			帰室時もセンサースイッチを入れておく。	C		3
97	2024/12/6	20:30	1	a尻餅	床に落ちたためいぐみを取ろうとして尻餅をつく。			眠気があれば連れ帰る。	C		3

98	2024/12/8	9:30	a尻餅	訪室すると床に尻餅をついている。	朝食後は臥床し、センサー対応する。	C	3
99	2024/12/9	12:00	h誤嚥	尿食時、意識消失し誤嚥する。	普段と様子が違う際は無理しない。	A	5
100	2024/12/10	17:00	j誤配薬	水薬の量が異なっていることに気づく。	きちんと説明書を確認してセットする。	C	5
101	2024/12/18	9:00	i骨折	腰痛あり。トイレにて立位できず。	衝撃が掛からないような介助を行う。	C	3
102	2024/12/22	20:00	j誤配薬	他利用者の薬がセットしてある。	名前のシートの所に同姓の印を付ける。	C	3
103	2024/12/22	4:00	b転倒	居室で右側を下にして転倒している。	夜間センサーマット設置する。	C	4
104	2024/12/23	5:00	d剥離	布団をはくると右前腕を剥離しているのを見つける。	皮膚が弱いので介助時注意して関わる。	C	3
105	2024/12/24	0:00	g誤薬	血糖値を計る前に朝食介助してしまった。	カードを作成し、配薬時に間違えないよう活用する。	C	4
106	2024/12/26	18:45	b転倒	ホール中央で左を下に転倒している。	見守りができない時には応援を頼むか、居室で過ごしてもらう。	C	3
107	2024/12/26	16:30	c転落	コールが鳴り訪室するとベッド下で仰向けになっている。	ベッド下に緩和マットを設置する。	C	3
108	2024/12/30	19:15	a尻餅	他利用者居室で車椅子フットレストで座り込んでいる。	車椅子のブレーキ修理。他利用者居室にいるときは声かける。	C	3
109	2025/1/3	12:00	lその他	長芋のそばに長芋の塊が入っていた。	ミキサーにかけた後、ホールにザルをかざす。	C	5
110	2025/1/5	7:00	a尻餅	自室ポータルの前で尻餅をついている。	センサーをベッド下に設置する。	C	3
111	2025/1/8	4:00	d剥離	四つん這いで廊下に出る。その際右手薬指に出血あり。	柵にカバーをし、人感センサーで明るくする。	C	4
112	2025/1/10	7:00	b転倒	車椅子より左を下にして転倒している。	車椅子の変更、離床時間の変更	C	3
113	2025/1/13	7:10	b転倒	トイレで右を下にして倒れている。	東南で協力して見守りを行う。	C	3
114	2025/1/13	20:00	g誤薬	排便があったが下剤を服薬させてしまう。	便表に記載漏れがないか、日付と名前の確認をきちんと行う。	C	5
115	2025/1/16	14:55	a尻餅	ショート棟前で体育座りしている。	歩行器を使用してもらい、見守り対応する。	C	3
116	2025/1/16	15:45	b転倒	左を下にしてホールで転倒している。	不意に立ち上がることがあるので注意し対応する。	C	3
117	2025/1/18	11:00	b転倒	ホール自席横で転倒しているのを発見する。	ホールから離れるときは職員同士で声を掛け合う。	C	4
118	2025/1/24	20:45	g誤薬	センサーが鳴り訪室するとベッドサイドで転倒している。	靴を履いてもらう。周辺環境整備。	C	3
119	2025/1/26	8:30	g誤薬	注入台の掃除の際に本人の夕食後薬を見つける。	臨時薬、定期薬の確認を薬を作る際に確認する。	C	5
120	2025/1/30	18:00	j誤配薬	ラキソの滴数が5滴多くなっている。	滴数の確認を準備後に再度確認する。	C	3
121	2025/1/31	11:30	a尻餅	訪室するとベッドサイドで尻餅をついている。	体調不良時は頻りに訪室して様子観察する。	C	3
122	2025/2/1	17:30	j誤配薬	糖尿病薬の使用時間が説明書に書かれたものと異なっている。	薬の説明書を再度確認してからワーカーに伝える。	C	4
123	2025/2/3	10:45	c転落	ベッド下に布団にくるまった状態で横になっている。	ベッド柵の位置を中央にする。臥床時緩和マット使用。	C	5
124	2025/2/4	9:45	lその他	足の傷の処置ができていなかった。	看護師、ケアワーカー双方で清拭後に声をかける。	C	5
125	2025/2/5	8:25	f異食	食事介助中、残菌を飲み込んだ様子。	口が開かないときは無理して介助を行わない。	C	5
126	2025/2/9	11:10	b転倒	フロア自線中に、車椅子より転倒する。	車椅子の検討	C	3
127	2025/2/9	21:15	b転倒	センサーが鳴り訪室するもベッド下で横になっている。	タンスの上に懸掛けなどを置かない。ベッド灯をつける。	C	3
128	2025/2/9	10:40	b転倒	他利用者対応中、ホールで転倒する。	離れる際他職員に声をかけてからにする。	C	5
129	2025/2/13	8:00	g誤薬	他利用者の薬を服薬させてしまう。	配薬時、腹薬時に声だし、顔の確認を必ず行う。	C	2
130	2025/2/14	17:30	j誤配薬	本人のラキソが他利用者のカップに入れてある。	カップに書く名前はフルネームで記入	C	3
131	2025/2/14	20:00	j誤配薬	薬箱に薬がセットされていない。	ショート利用開始時の当日薬を入れる箱を用意する。	C	3
132	2025/2/16	15:50	a尻餅	ホールで左を下にして尻餅をついている。	ホールにいるときは見守りを行う。	C	2
133	2025/2/17	18:30	i骨折	腰部に痛み訴えあり。第12胸椎椎体骨折の診断。	日常生活動作一つ一つを慎重に行う。	B	4
134	2025/2/21	4:15	b転倒	センサーあり訪室するもベッド下で横になっている。	靴を本人の近くに置く。	C	4
135	2025/2/22	18:30	b転倒	フットレストが上がった状態で移動しようとして転倒する。	声かけてフットレストを上げてから移動してもらう。	C	3
136	2025/2/23	20:00	i骨折	ベッド端坐位になる際、腰痛訴えあり。腰椎椎体骨折の診断。	居室内の環境整備を行う。	A	4
137	2025/2/23	17:00	j誤配薬	他利用者のカップにラキソが入れている。	カップを入れるとき、セットするときと二重チェックする。	C	5
138	2025/3/2	12:40	d剥離	ベッド移乗の際、右前腕剥離させてしまう。	移乗時はバリンのフックを外し、本人に当たらないようにする。	C	5
139	2025/3/3	14:40	a尻餅	ベッドとタンスの間で横になっている。	用事があるときはコールを押してもらうようにする。	C	4
140	2025/3/4	8:00	i骨折	ギャジアップの際腰痛あり。腰椎圧迫骨折。	座る際の衝撃がないようにケアを行う。	B	3
141	2025/3/4	13:00	g誤薬	尿食後、腰痛訴えあり。腰椎圧迫骨折。	高さ調節できるものは本人の過ごしやすい高さ調節する。	B	3
142	2025/3/10	4:00	d剥離	PTイレ介助の際、左手首の皮下出血跡が剥離している。	アームウォーマー着用する。	C	3
143	2025/3/11	14:45	lその他	リハビリのため訪室も本人膝を痛がる。	自律動作中に危険があれば声をかける。	C	3
144	2025/3/10	9:00	lその他	自分のひげそりで頭を坊主にしてしまう。	ひげ剃りは職員で管理する。	C	2
145	2025/3/11	15:50	a尻餅	ホールで床に座り込んでいる。	入浴から戻ったら他の職員に声をかける。	C	3
146	2025/3/14	9:20	d剥離	入浴の際、左足第1指が車椅子に当たり出血	広いところで移乗を行う。	C	5
147	2025/3/14	14:10	e打撲	入浴時、左膝下に皮下出血跡あり。	移乗の際は二人介助にて行う。	C	5
148	2025/3/17	9:00	lその他	予定表のバリン交換の印がとれていて交換できなかった。	印をテープでなく書き込むことにする。	C	5
149	2025/3/17	4:00	e打撲	ベッド下で横になっている。交換時抵抗あり両手背に皮下出血ができてしまう。	抵抗強いときは時間をおく。	C	5
150	2025/3/23	2:00	g誤薬	朝食後薬作成中にコールが鳴り、対応時に薬のキヤップと本体を間違える。	キヤップと本体の名前の確認を必ず行う。	C	4
151	2025/3/24	5:30	a尻餅	センサーあり、訪室も尻餅をついている。	靴を新しい物に変更する。	C	3
152	2025/3/25	9:30	e打撲	端坐位になった際に、右手背に皮下出血あり。	介助時は手を持たず背中から支えるようにする。	C	4
153	2025/3/29	16:00	c転落	布団にくるまった状態で床にいる。	柵の位置を変更し、ベッドの高さを最低床にする。	C	3
154	2025/3/30	20:00	lその他	訪室すると、ベッドと柵の間に入り動けなくなっている。	ベッドと柵の隙間をなくす。	C	3
155	2025/3/30	7:00	c転落	ベッド下の緩和マットで正座している。	柵の位置を変更、最低床のベッドに変更。	C	3
156	2025/3/31	11:00	d剥離	入浴時、肌着を着る際に右手首を2cm剥離してしまう。	皮膚が弱いことを頭に入れて介助する。	C	5

令和4年度	
種別	件数
a尻餅	18
b転倒	25
c転落	15
d剥離	25
e打撲	15
f異食	5
g誤薬	7
h誤嚥	2
i骨折	8
j誤配薬	8
kトラブル	1
lその他	19
	148

令和5年度	
種別	件数
a尻餅	30
b転倒	39
c転落	7
d剥離	20
e打撲	8
f異食	2
g誤薬	2
h誤嚥	0
i骨折	4
j誤配薬	8
kトラブル	2
lその他	33
	155

令和6年度	
種別	件数
a尻餅	29
b転倒	24
c転落	8
d剥離	21
e打撲	16
f異食	1
g誤薬	13
h誤嚥	2
i骨折	9
j誤配薬	9
kトラブル	7
lその他	17
	156

## 苦情受け付け（長命園）

令和6年4月1日～

番号	受付年月日 氏名	相談者	苦情・要望内容	解決状況
1	3月27日	ショートステイ利用家族	<p>18時40分頃家族より入電あり「今日帰宅予定だったと思いますが、どうなっていますか？明日は朝から受診があるのでどうしたらよいですか？」と本日帰宅予定の利用者が帰ってこないことについての問い合わせがある。</p> <p>申出人の希望：本日中に帰宅してほしい。間違いがないようにしてほしい。</p>	<p>① ショート担当が不在だったため、電話を受けた事務職員が一度確認を行い、再度家族に連絡し、すぐに自宅に送迎した。</p> <p>② 3/28 15時ショート担当者が施設に残っていた洗濯済みの衣類と利用料金のおつり、領収書を自宅に届ける。</p> <p>本人は在宅だったが家族は工作中で不在。本人に今回の経緯を説明、お詫びをする。家族にはあらためてお詫びをすること伝える。その際に家族宛てにお詫びの書面を本人に預けて帰る。</p> <p>③ ショート利用帰宅日が変更となっていたがショート予定表を変更していなかったため起こった。今後は、二つの表を照らし合わせて確認作業を行う。</p>

## 苦情受け付け（長命園）

令和6年4月1日～

番号	受付年月日 氏名	相談者	苦情・要望内容	解決状況
2	4月6日	地域住民	<p>4/6 13:15 長命園に外部の方より入電あり。「長命園玄関より進入してくるやくものお家の車の交通ルールがなっていない。いつも道路を譲っているが、本日はより強引で、割り込んで当たり前という態度が見受けられた。」との苦情あり。</p> <p>申出人の希望:危険でないように改めてほしい。</p>	<p>① 4/8 電話対応した職員より園長に報告あり。電話対応した職員よりそのときの様子を聞く。</p> <p>② 午前中にやくものお家管理者に状況確認をする。やくものお家の職員に事案について気をつけるよう伝えてもらう。給食の主任に電話内容を伝え、当園出入り業者にも今後も気をつけてもらうようお願いすることとした。</p> <p>③ 長命園玄関を出入りするときは歩行者や通行者に気をつけること、関連業者にお願ひし、5/1職員に注意するよう主任会議で周知した。</p>
3	6月20日	利用者	<p>利用者より「名前を覚えてくれない職員がいます。聞いてもそっぽを向けられます。」と相談がある。</p> <p>申出人の希望:名前を聞いたときは教えてほしい。</p>	<p>① 6/26 15時 相談員が利用者に相談内容を確認する。本人に次回の主任会議で議題に挙げ、話し合うことを伝える。</p> <p>② 7/3 主任会議にて相談内容の報告を行い、対応について話し合う。</p> <p>③ 利用者から名前を聞かれたら答えるのがマナーであるため、聞かれたら答えるよう誠実な対応をすることを職員全体に周知した。</p>

				<p>④ 7/5 本人に主任会で話し合った内容について報告する。「わかりました。話し合ってくれたありがとうございます。」と返答あり。</p>
--	--	--	--	--

---

小規模多機能型居宅介護事業所 やくものお家

2024年度事業報告

---

## 地域密着小規模多機能型居宅介護事業所 「長命園やくものお家」 事業報告

### 1 総括

2024年度は介護報酬改定の年でありましたが、この中でも特に訪問介護の基本報酬の引き下げというとても衝撃的なことがありました。在宅生活を支えるためには欠かせない事業の一つであり、同じ在宅支援事業所として驚かざるを得ませんでした。その影響もあってか、3月末には同じ町内にある訪問事業所が閉所されました。引き続き訪問介護を利用したくても、市内からの訪問は難しいとのことでサービスの変更を余儀なくされた方もいらっしゃるようです。

令和5年5月よりコロナウイルス感染症が「5類感染症」に引き下げられ、活動範囲も広がりました。それでも流行は続き、8月には利用者9名、職員7名の感染者が発生し、1週間の休業を余儀なくされました。通いサービスは中止しましたが、泊まり、必要な方には訪問や安否確認の支援の継続をし、サービスが途切れないよう支援することが出来たと思います。

今年度の登録率は71.3%、平均登録者数17.8名、平均介護度は1.72でした。

「泊まり」の1日平均は3.6名。曜日によっては定員の7名という日もありました。定期的に宿泊されることで、「これがあるから頑張れます」とご家族からの声もありました。また、大雪が降り自宅への帰宅が困難な方への泊まりの延長や、仕事の都合でどうしても様子を見に行ったり食事の準備、買い物、受診介助などが出来ないとの相談を受け、1か月間は毎日関わらせてもらいました。「心配でしたが、毎日関わって頂きとても安心して仕事できました」とおっしゃっていただき、小規模多機能だからできるサービスの提供もできたと思います。

4月からは「特別地域加算」の取得、10月からは「総合マネジメント体制強化加算Ⅱ」の取得をし、収入の確保に努めました。また、事業所開設以来、初めて食費の値上げをしました。

登録に空きがあっても職員不足から受け入れが出来ない状況が続いています。働く時間、働き方などの工夫や、限定正職という枠を作り求人募集をしています。人員確保はできていません。利用者確保のためにも、人員確保を何とかクリアし、働きやすい職場を目指していきたいと思っています。

### 2 部門単位方針・重点施策

事業所年間テーマ（目標）

- ・利用者は人生の先輩であることを常に思い、支援をさせていただくという気持ちを忘れない
- ・私たち職員は一つのチームであることを自覚する。情報共有をしながら統一した対応、

支援を行う

## (1) 介護部門

年間テーマ（目標）

「利用者ごとの理解を深め、安心して過ごせる場の提供を心掛ける」

1. 利用者、家族とコミュニケーション（話の傾聴）をとる

⇒利用者、家族とコミュニケーションを取るよう努めた。

2. 情報共有の徹底

⇒知り得た情報は申し送りノートなどを活用し、職員に周知するようにしたが、一部の職員のみで共有し、全ての職員に情報が伝わらないこともあった。

3. 季節を感じるレクリエーションの提供

⇒外出の機会を増やし、また季節の壁飾りを作る等工作も行った。

4. 施設内の整理整頓の徹底

⇒使用した職員用の椅子が出しっぱなしのこともあった。安全のためにも使用後は元の位置に戻すなど周知しているにも関わらず出来ていないことがあった。

5. 研修への参加

⇒オンライン研修を受けるよう職員に何度か声掛けをしたが、受講しなかった職員もいた。（PC やスマホなどの操作などが出来ない職員もいた）

## (2) 看護部門

年間テーマ（目標）

「観察力を高める。『いつもと何か違う』に気付けるよう日頃からご利用者とのコミュニケーションを大切にする

1. スタッフ間の情報共有、家族や医療機関との連携に努める

⇒申し送りノート、毎日のミーティングやスタッフ会議などで情報共有をおこなった。必要時には家族へ連絡し、受診の提案など行うことが出来た。また、薬についての疑問などは薬局や医療関係者などといった他職種との連携に努めた。

2. 薬の内容の把握、周知に努め、確実な薬の準備、服薬支援をする

⇒服薬介助時に他利用者の薬を服薬してしまった誤薬があった。名前や日時など確実に確認し、絶対あってはならない事項であることを再認識する。

3. 報・連・相の励行

⇒家族からの情報や他職種からの連絡事項などの報連相に努めた。看護記録への記入だけではなく、申し送りノートやケースファイルへの記入、責任者への報告に落ち度があったため、次回からは気を付けたい。

4. 症状に伴う処置、ケアを適切に行う

⇒施設内での受傷時や体調不良時などには受診対応を行うことができた。他職員も協力しながら適切な処置やケアなど実施することができた。また、内服薬や外用薬などの在庫が不足する前に家族へ連絡し、準備の協力を得ることができた。

5. 研修や学習会に参加し、知識や技術の向上に努める

⇒毎月のeラーニング研修の受講、感染症対策のBCP研修ではガウンテクニックについての研修を介護職員と共に行った。また、救急隊員に来ていただき救命救急講習会を実施することができた。

### (3) ケアマネジメント（介護支援専門員）

年間テーマ（目標）

「利用者、家族との信頼関係を築き、在宅生活を支援する」

1. 利用者、家族との関係づくりを行う

⇒利用者や家族と改めて話をする機会を持ち、連絡ノートを通じてのやり取りを行うことができた。話しやすい雰囲気づくりに努めた。

2. スタッフへの迅速な情報の共有

⇒利用前の情報や、知り得た情報は連絡ノートや日頃のミーティング、カンファレンスなどで情報共有するように努めた

3. 利用者の暮らしに合った支援計画の作成

⇒本人や家族と話す機会を持つ、利用者に関わる方との情報共有、日頃の様子を観察しながらプランの作成にあたった

4. 必要な知識、技術の習得

⇒外部研修など参加できるものには参加したが、もう少し視野を広げるためにも積極的に研修に参加できればよかった。

### (4) 防火管理者

年間テーマ（目標）

「防災意識を持ち火事を起こさない」

1. 電気器具などの管理を行い修理、買い換え必要時は素早い対応をする

⇒電気器具などの修理や買い替えを行い火事を起こさないよう努めた

2. 運営基準を遵守し、年2回の防災訓練を実施する

⇒年2回の防火訓練を実施した。内1回は消防の方に参加してもらい意見をいただいた

3. 全スタッフが多様な緊急時に対応できるよう訓練する

⇒火災カ所の場所を変え、避難経路を参加職員と共有し訓練した

### (5) 安全運転管理者

年間テーマ（目標）

「利用者にとって安心安全の優しい運転を心掛け、安全運転に努める」

1. 運転規則を守り、事故を起こさない

⇒安心してもらえるような安全運転に努めた

2. 車の故障や損傷時は速やかに対処する。

⇒慣れた道での接触事故は数件あり、報告のない傷などあった

3. 県道からやくものお家までの細い道は時速 20km を守る  
 ⇒公用車のみならず自家用車でも守るよう周知しているはずが、20km 以上出ている車も見受けられたため、再度職員全員に守るよう伝えた
4. 台風や積雪などの状態により、十分な安全が確保できるよう対応する  
 ⇒安全運転に努め、特に雪道などは最新の注意を払って運転をした

### 3 会議

会議名	開催時期	出席者
スタッフ会議	毎月 第 4 金曜日	管理者、介護支援専門員、看護師、ケアワーカー
運営推進会議	偶数月 第 3 木曜日	利用者家族、市職員、地域包括支援センター職員、地域住民代表（民生委員など）、知見者、管理者、介護支援専門員、職員など
地域ケア会議	2 か月に 1 回	地域包括支援センター職員、心と体の相談センター職員、介護支援専門員など

### 4 委員会

委員会名	開催時期	出席者
虐待防止委員会	6/28 2/28	管理者、介護支援専門員、看護師、ケアワーカー
感染症対策委員会	5/24 11/22	管理者、介護支援専門員、看護師、ケアワーカー

### 5 研修・訓練等

#### 研修会参加状況

月日	研修名
4/23	接遇研修
6/21	応急手当講習
8/23	松江市集団指導
12/6	高齢者虐待防止研修
1/31	令和 6 年度 松江市給付適正化研修会

### 訓練実施状況

6/28	避難訓練
10/29	避難訓練
1/24	BCP 感染症予防訓練
3/28	BCP 災害時訓練

### e ラーニングによる研修

実施月	研修内容
4月	資質向上研修 チームでの仕事の進め方 身体拘束の排除・高齢者虐待防止に関する研修①
5月	感染症・食中毒の予防及びまん延防止に関する研修①
6月	事故発生又は再発防止に関する研修①
7月	認知症及び認知症ケアに関する研修①
8月	倫理及び法令遵守に関する研修①
9月	正しい姿勢 褥瘡予防（介護 看護） 感染症及び災害に係る業務継続計画のための研修①
10月	身体拘束の排除・高齢者虐待防止に関する研修② 感染症及び災害に係る業務継続計画のための研修② 認知症及び認知症ケアに関する研修②
11月	精神的ケアに関する研修
12月	ターミナルケアに関する研修
1月	緊急時の対応に関する研修
2月	感染症・食中毒の予防及びまん延防止に関する研修② 事故発生又は再発防止に関する研修②
3月	介護現場で気を付けたい個人情報、プライバシー保護

### 6 行事

4/1	かんべの里へ花見	4/10～12	チューリップ鑑賞（伯太）
4/29	4月生まれ誕生会	5/18	5月生まれ誕生会
5/29.30	書道	6/7	笹巻作り
6/21	運動会	6/28	6月生まれ誕生会
8/12	書道	9/27	敬老会
9/30.10/1	書道	10/19.20	八雲町文化祭
10/21	10月生まれ誕生会	11/8	地藏法要（龍源寺様）

11/11~15	秋の遠足(一畑薬師他)	11/12	ボランティア喫茶
11/16.18	書道	11/19	干し柿づくり
12/11	12月生まれ誕生会	12/11.12	書道
12/16	クリスマス会	12/23	忘年会
1/13	1月生まれ誕生会	1/14	ボランティア喫茶
1/21	初詣	1/24	書初め 新年会
2/10	節分祭	2/11	2月生まれ誕生会
2/24.25	書道	3/3	雛飾り
3/8	3月生まれ誕生会	3/11	ボランティア喫茶

## 7 実習生・研修生受け入れ状況

9/17~19 職場体験1名(福祉人材センターより)

## 8 ボランティア来所

笛巻き(新谷様) 大正琴(ブーフーウー様) マジックショー(健福マジック様)  
散髪(ペロコルテ様) カラオケ(森山様)

## 9 その他

- ・5/10~職員健康診断
- ・消防立ち入り調査
- ・7/10~大雨警報により通いサービス早めに切り上げる 宿泊者を最小限とした
- ・7/11~文化祭実行委員会
- ・8/2~8/8 コロナ感染症発生により休業(利用者9名 職員7名)
- ・8/30~大型台風接近により通いサービス早めに切り上げる
- ・9/5~文化祭実行委員会
- ・9/29~八雲町清掃活動(理事長・長命園事務長・長命園部長・高橋)

介護度別利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要支援1	4	3	3	4	2	2
2	3	3	2	2	2	2
要介護1	5	6	6	5	6	6
2	4	3	3	3	6	5
3	3	3	2	2	2	2
4	1	1	2	2	2	2
5	1	1	1	0	0	0
合計	21	20	19	18	20	19
平均介護度	1.6	1.61	1.73	1.78	1.71	1.6
通所／平均	318/10.6	333/10.7	301/10	320/10.3	248/8	282/9.4
宿泊／平均	128/4.2	128/4.1	128/4.2	134/4.3	111/3.5	107/3.5
訪問／平均	17/0.5	15/0.4	14/0.4	21/0.6	12/0.3	32/1.0
入院	1	2	2	3	1	1
退院	1	1	1	1	3	
新規	1			1	3	
退所		1	1	1	2	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	1	2	1	1	1	1
2	2	2	2	2	1	2
要介護1	5	5	5	4	4	4
2	6	6	4	4	5	3
3	2	2	2	2	2	3
4	2	2	1	2	2	2
5	0	0	0	0	0	0
合計	18	19	15	15	15	15
平均介護度	1.78	1.71	1.6	1.8	1.9	1.87
通所／平均	310/10	293/9.7	282/9	239/7.7	238/8.5	289/9.3
宿泊／平均	123/3.9	107/3.5	100/3.2	84/2.7	97/3.4	124/4
訪問／平均	26/0.8	16/0.5	17/0.5	29/0.9	11/0.3	48/1.5
入院	1		4	1	1	2
退院	1	1		1	1	2
新規						
退所	1		2	1		

## 事故・ひやりはつと報告

令和6年度

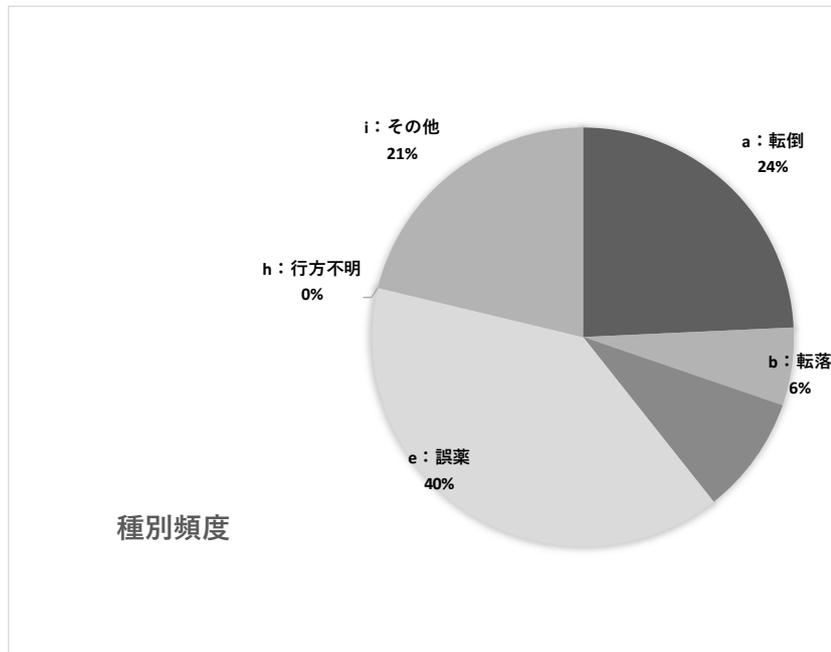
長命園 やくものお家

No.	月日	時間	氏名	種別	内 容	対 策	程度	介護度
<b>ひやりはつと報告</b>								
1	4月5日	21:20	A	i:その他	就寝前車いすのロックを外そうとした際に、車いすのブレーキと車輪の間にパルーンのチューブが挟まっていた。	・チューブを挟まないように、ブレーキを掛けるときは必ず確認する。	A	要介護5
2	4月22日	9:30	B	e:誤薬	4/22の昼食後の薬がなく、4/20の薬が残っていた。	・薬をセットする際、服用時に必ず名前、日時を声出し確認する。	A	要介護2
3	4月22日	18:15	C	e:誤薬	包装から出された薬がゴミ箱内から出てきた。	・本人の口腔内に入ったこと、飲み込みまで確認する。(口から出されることがあるため)	A	要介護2
4	4月23日	9:40	B	e:誤薬	本来お薬カレンダーの「朝」のところにセットしていないといけない起床時薬を「昼」の一番後ろにセットしてあった	・薬をセットする際、服用時に必ず名前、日時を声出し確認する。	A	要介護2
5	5月4日	17:00	B	i:その他	事務所で預かっている、貴重品が入ったカバンを忘れたため、送ったはずの本人と送迎担当者が戻ってくる(家の鍵もカバンに入れているため入れなかった)	・荷物をすべて持ったかを確認する ・いつもギリギリにトイレに行かれて忙しいため早めに声掛けしトイレに行ってもらう	A	要介護2
6	6月5日	7:50	D	e:誤薬	ゴミ箱の中に漢方薬の中身が散らばっており、封が開いている漢方薬の袋の中にも漢方薬が入った状態で捨ててあった	・服用するまで側にいて、服用したことを確認する	A	要支援2
7	6月8日	10:30	E	e:誤薬	ニトロダームを張り替える際に、薬剤テープではなくテープが貼ってある台紙側が貼付されていた。	・前日貼付した職員に説明し、間違いのないよう伝える	A	要介護4
8	7月7日	17:20	C	e:誤薬	ゴミ集めをしていると、不燃物入れの中から薬が出てきた(錠剤薬を飲むのが苦手で、自宅でも飲めないことが多くそれはそれでいいと家族了承済みだが、シートに入ったまま薬が捨てられていた)	・服薬時の薬の数を確認。シートの中に残っていないかを確認する	A	要介護2
9	7月17日	12:30	F	e:誤薬	リビング床に薬が落ちている。調べるとFさんの飲んでいる眠前薬であった	・口の中に入れてだけでは確実に服用したかどうかは分からないため、必ず飲み込みまで確認する	A	要介護2
10	8月15日	7:00	E	e:誤薬	起床時に排泄介助を行っている時、眠前薬が枕元に落ちていた	・口の中に入れてだけでは確実に服用したかどうかは分からないため、必ず飲み込みまで確認する	A	要介護4
11	9月13日	11:05	G	i:その他	レクの最中にバランスを崩し、膝折れし右膝をつく	・腕を組み転倒しないよう介助していたが、横ではなく後ろから支えるようにする	A	要介護1
12	10月23日	9:45	B	e:誤薬	前日の昼食後服用のゼリー薬が薬袋内に残っていた	・セットする際、服用する際には薬をすべて提供できているのかを確認する。薬カップを作成し、ゼリー薬が毎食後あることを看護師だけではなく全職員が周知できるようにする	A	要介護2
13	1月12日	9:00	B	e:誤薬	自宅のお薬カレンダーにセットしなければならない薬がセットしてあった。	・予定を確認、把握する ・自宅セット用に分けてある薬袋内の薬はかまわない	A	要介護2
14	2月2日	9:00	B	e:誤薬	前日の夕食後薬がお薬カレンダーに残っていた	・帰宅前に服用してもらうため、忘れないよう薬カップを作り、事前に湯飲み棚へ入れておく	A	要介護2
15	2月13日	6:40	H	i:その他	居室より「ガタン」と音がしたため訪室すると、ギャッジが90°C近くまで上がっており、枕元に置いている入れ物、コールボタンが落ちていた。またベッドの高さも上がっていた。	・ベッドを操作するリモコンを手の届くところに置かない	A	要介護4
16	3月16日	8:43	E	e:誤薬	貼付薬が前日、前々日のものが貼られていた	・貼り替える際は、前日分を剥がしてから貼付する	A	要介護4

事故報告書								
1	4月3日	15:45	H	c: 外傷	トイレ介助時にペーパーホルダーと介助者の体の間に手が挟まれ、左親指下が赤く腫れていた	・介助時は必ず声掛けをしてから行う。 ・手摺りをつかんでもらう	A	要介護3
2	4月19日	5:40	C	a: 転倒	居室入り口で座り込んでおり、本人曰く居室に置いてあった段ボールに背中をぶつけてしまったと言う。	・バランスが不安定で転倒しやすい。センサーマットをするようにした	A	要介護2
3	5月9日	17:20	A	e: 誤薬	A様にC様の下剤を飲んでもらってしまった	・服薬の際は必ず声出し確認をすること	A	要介護5
4	7月18日	13:15	I	a: 転倒	リビングのロッカーの所から出る際に、扉のレールに足を取られて転倒する	・見守り、声掛けをして注意を促す	A	要介護1
5	7月31日	2:40	F	a: 転倒	トイレに入られたのを確認後に「助けて」と声が聞こえ、トイレを開けると尻もちをついていた	・常に介助は難しいが、トイレに行ったことは把握する ・体調不良だったこともあり、健康観察に努める。	A	要介護2
6	8月8日	6:08	J	a: 転倒	センサーが鳴り訪室しようと向かうと居室入り口で転倒	・少しヒールのあるサンダルだったため、履物をフラットのものに替える。 ・日頃から目的不明確動作も多い。特に体調不良だったこともあり健康観察に努める。	A	要介護3
7	9月6日	9:30	E	c: 外傷	車いす移動時、右手が手摺りにあたる	・車いす移動する際は、手を中に入れてもらうよう声掛けし確認する	A	要介護3
8	9月9日	9:00	L	i: その他	脱衣場の椅子ではなく選択かごに座り尻もちをつく	・椅子とかごの位置がいつもと逆であったため位置を変えない。座られるときは声掛けをする	A	要介護1
9	9月12日	19:45	B	a: 転倒	席に着く際に椅子に座り損ねる	・移動時、着席時には見守りをする	A	要介護2
10	11月2日	3:30	F	a: 転倒	いつもと違う音がし、居室へ向かうと入り口で転倒している。本人「すべった」と話す	出来る限り行動を見守る。	A	要介護2
11	11月4日	10:30	G	b: 転落	脱衣場でその場を離れて戻ると、バランスを崩し椅子から落ちた様子	・その場から離れない。離れる際は他の職員を呼ぶこと	A	要介護1
12	1月2日	9:55	F	a: 転倒	立ち上がり時にバランスを崩し転倒	・歩き始めは不安定なことが多いため履物がきちんと履かれているか確認し見守る	A	要介護2
13	1月28日	0:10	E	b: 転落	センサーとコールが鳴り、訪室するとベッド下に座っている。「コールのスイッチが落ちて取ろうとしたらベッドから滑落した」と話す。	・コールのスイッチを落ちないようにする。 ・ベッドを低床にしておく	A	要介護4
14	3月15日	16:30	E	i: その他	車いすからソファへ移動している	・移動や移乗をする前に職員に声をかけるよう伝える。コールを渡し、呼んでもらう	A	要介護4
15	3月16日	8:45	E	c: 外傷	車いすからシャワーチェアに移る際に右下肢がチェアの出っ張りにあたり剥離する	・移乗時に上半身だけではなく、足元にも気を付けるようにする	B	要介護4
16	3月19日	19:40	F	a: 転倒	居室から出てきて洗面所前で転倒する。	・センサーマットのスイッチを入れる ・特に不穏時は行動を把握するようにする	C	要介護2
17	3月26日	11:10	H	i: その他	お茶がこぼれ大腿部の内側に発赤、水膨れが出来る。	・こぼれても大丈夫な温度のお茶を出す。 ・見守りしながら一緒にお茶を飲む	B	要介護4

	程度
A	受診なし
B	受診（擦り傷・打撲）
C	受診（骨折）

種別	頻度
a：転倒	8
b：転落	2
c：外傷	3
d：誤嚥	0
e：誤薬	13
f：異食	0
g：自傷	0
h：行方不明	0
i：その他	7



(まとめ)

令和6年度は33件の報告の内、ひやりはっとが16件、事故報告が17件であった。薬に関する事としてあげている誤薬が一番多い。薬のセットミス、飲み忘れ（配薬忘れ）など、利用者のミスではなく明らかに介助者のミスが多数である。また、他の利用者の薬を服薬介助にて飲んでしまったという、大変危険なミスも今年度はあった。幸い体調不良の訴えもなく、変わらず過されたが、薬は利用者の健康状態、命にも関わることでであると再認識し、絶対あってはならないミスであることと一人ひとりが肝に銘じ支援にあたっていこうと思う。

次いで多いのが転倒であった。今年度は転倒し骨折、入院と重大な事故が起きてしまった。常に利用者の行動を観察することは難しいが、日頃からの行動や身体状況、その時の様子などを把握しながらリスクを最小限に抑えられるよう、職員間で情報共有したいと思う。

利用者原因ではない、明らかに職員のミスである部分は同じことを繰り返さないようひやりはっと報告書を活かしていかなければならない。

利用者に安心・安全な支援が出来るよう、また安心・安全に過ごして頂けるよう日頃からの関わりを大切にしていきたいと思う。

## 苦情相談受付（やくものお家）

No.	受付日	相談者	苦情・要望	対応・解決状況
1	4月6日	匿名	(長命園に電話あり) 長命園玄関前に進入してくるやくものお家の車の交通ルールがなっていない。いつも道路を譲っているが、本日はより強引で割り込んで当たり前という態度が見受けられた。	①直線道路が優先。割り込みはしないように通り過ぎるのを待つ。また、相手が譲ってくださるようなジェスチャーやパッシングなどされたら曲がるようにする。その際は譲って頂いたことに対してお辞儀をしたり、手をあげたりしてお礼を伝えるようにする。
2	4月23日	ご家族	ニトロベン舌下錠を使用する際に、娘さん、他職員が探すも本人の薬が保管してある棚の引き出しの中には入っておらず、すぐに見つけられなかった。ケースの上に置いてあり、看護師のみが把握している状態だった。娘さんから直接看護師に「分かるところにおいて」と伝え、「分かるところにおいていました」と繰り返し言われた。また、期限切れであることを看護師から聞かれたがそうなる前に教えてほしい。状態を確認しておくのも看護師の仕事じゃないか。期限が切れているが飲ませていいのか、何錠飲ませていいのかなど聞かれたがこちらに聞いてくるのはおかしい。知らないのであれば調べるとか薬局に聞くとかして把握しておくべき」と言われる。	対応について謝罪させて頂き、今後の対応についても説明する。 ①気持ち傾聴する。 ②全員が分かるように、連絡事項伝達ノートなどを活用し周知徹底する。 ③薬の事で分からないことがあれば、調べたり薬剤師に聞いたりする。 ④お客様に対する言葉遣いを気をつける。
3	6月3日	ご家族	(来所される) 他利用者の印が押してある利用票を渡され「母が帰ってきて荷物を確認したら、これが母のノートに挟まっていた。名前を確認したら〇〇さんと書いてあった。個人情報でもあるし、うちはいいけどやくものお家さん的にはだめじゃないか」 また、「この前も母の薬を忘れられたし(持ち帰り)。新しい職員さんが入ってバタバタしてるかもしれない気を付けてほしい」と言われる。	①朝連絡ノートを確認する際に、予定表や利用票など挟まっている物は一度取りだし連絡袋に入れる。ノートに挟みっぱなしにしない。 ②必ず名前を確認して入れる。(近くにあったからといってその人ののだと思いたくない) ①荷物がそろっているかを確認してから送迎に出掛ける。
4	10月9日	ご本人	入浴時 「職員さんで水のような湯加減の人がいて、申し訳ないけど熱いお湯を入れてもらうようお願いをするが「お風呂は15分まで」と言われて温まる前にでないといけなくてゆっくり入らせてほしい。あの職員さんの時はお風呂に入るのを断った方がいいかと思っている」と話される。	①この方に限らず本人の好きな湯加減で入ってもらおう。(熱め、ぬるめと好みがある) ゆっくり入りたい方、すぐ上がる方など色々なので急かさない。
5	1月15日	ご本人	朝の迎え時 「連絡ノートはちゃんと読んで」と言われる。話しを聞くと「月曜日(前回来所時) ノート読んでなかったでしょ」と言われ、来所時ノートを確認すると「食事が食べにくかったらゼリーを入れておくので食べさせてください」と記入してあった。その日食事が5割程度だったがゼリーを出さずそのまま持ち帰ってあった。	①連絡ノートの家族からの記入に対して返事を必ず書く。朝の送り時に読まれた事を忘れていても、ノート記入時に再度確認する。最後にノートを記入した職員は、閉じる前に家族からのコメントに対して返事が書いてあるかを必ず確認する。 ②今回はカバンの中に入っているのを確認した職員がいたが、誰かが出すだろうとそのままにしていた。見つけた時点で反応し、ノートを確認したり、迎えに行った職員に確認するなどし、カバンから出すこと。
6	3月29日	ご家族	迎え時、ノートに記載あり。 「泊まりの時に少し多めにパッドを入れているけど全然減っていない。この前泊まりから帰って来たときは尿臭がすごかった。汚れていなくてもパンツは換えてほしい。毎回じゃなくてもいいので、トイレに行くのを見かけたらパッドを持って行くように声を掛けてほしい」	①パット、パンツはカバンの中以外にもお預かりしている分が棚に置いてあるため、そこから出して交換していることを伝え、持参分をカバンの中から補充すること。 ②帰る前は必ず本人に声をかけ、確認させてもらい汚れていたら交換すること。
7	3月29日	ご家族	迎え時に話される。 「この前やくものお家に使ってもらおうとタオルを持って行った時に職員さんが「はい。何ですか?」ととても冷たい言い方だった。忙しいのは分かるけど、あれはちょっと」と話される。	①来客に対してきちんと挨拶をする。 ②お客様に対して忙しいのは理由にはならない。冷たい印象にならないように丁寧に対応すること。

**R6年度 月別利用状況**

R5年度 合計	介護報酬	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨年比
45	¥ 3,450	4	3	3	4	2	2	2	1	2	1	1	1	25	-20
27	¥ 6,972	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	25	-2
77	¥ 10,458	5	6	6	5	6	6	6	5	5	4	4	4	61	-16
48	¥ 15,370	4	3	3	3	6	5	6	6	4	4	5	3	52	4
36	¥ 22,359	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	3	27	-9
8	¥ 24,677	1	1	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	21	13
10	¥ 27,209	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	-7
<b>251</b>		<b>21</b>	<b>20</b>	<b>19</b>	<b>18</b>	<b>20</b>	<b>19</b>	<b>18</b>	<b>19</b>	<b>15</b>	<b>15</b>	<b>15</b>	<b>15</b>	<b>214</b>	<b>-37</b>
<b>3891</b>		318	333	301	320	248	282	310	293	282	239	238	289	<b>3453</b>	<b>-438</b>
<b>1273</b>		128	128	128	134	111	107	123	107	100	84	97	124	<b>1371</b>	<b>98</b>
<b>1079</b>		17	15	14	21	12	32	26	16	17	29	11	48	<b>258</b>	<b>-821</b>
¥38,302,900		¥3,652,380	¥3,523,100	¥3,430,990	¥3,452,960	¥2,968,810	¥3,713,420	¥3,637,250	¥3,727,610	¥3,579,880	¥3,187,900	¥3,155,110	¥3,305,610	¥41,335,020	¥3,032,120
¥6,138,185		¥546,060	¥549,025	¥529,770	¥558,145	¥446,160	¥463,683	¥518,519	¥495,298	¥463,917	¥392,947	¥424,033	¥544,854	¥5,932,411	¥-205,774
¥44,441,085		¥4,198,440	¥4,072,125	¥3,960,760	¥4,011,105	¥3,414,970	¥4,177,103	¥4,155,769	¥4,222,908	¥4,043,797	¥3,580,847	¥3,579,143	¥3,850,464	¥47,267,431	¥2,826,346
<b>7人</b>		1名			1名	3名								<b>5人</b>	
<b>8人</b>			1名	1名	1名	2名				2名				<b>9人</b>	
<b>4007</b>		318	333	300	320	248	282	308	295	282	242	238	289	<b>3455</b>	<b>-552</b>
<b>1719</b>		145	139	139	148	117	119	134	115	105	94	101	149	<b>1505</b>	<b>-214</b>
<b>1251</b>		126	128	130	132	113	107	123	107	102	83	96	125	<b>1372</b>	<b>121</b>

---

# こぼと保育園

2024年度事業報告

---

## 2024年度 こばと保育園 事業報告

### <保育園をめぐる情勢>

2024年の出生数は72万988人で統計をとりはじめた1899年以来過去最少となりました。また島根県の出生数は2020年4,473人。2022年4,161人。2023年4,040人(全国44位)と年々減り続けています。また鳥取県の2023年の出生数は3,493人で全国47位となっています。

2017年頃はまだ待機児童がたくさんいましたが、近年は子どもの減少で定員割れの園や0歳児の確保が難しく、園の経営にも大きな影響が出ています。そのため、定員を変更するところも出てきています。

保育士不足も大きな問題となっています。処遇改善等で、以前より給与はアップしたものの、他の職種と比較してもまだ低く、仕事に見合っていない。また仕事の内容や責任の重さ、持ち帰りの仕事なども保育士不足の原因と考えられています。そのため保育士養成校で学んでも、保育士にならない学生も増えています。産休・育休等に対応してもらった職員確保も容易ではなく、ぎりぎりの職員数で保育している園も多いと聞きます。

「こども誰でも通園制度(乳児等通園支援事業)」は2024年6月に成立したものの、保育現場では十分に理解されていないのが現状です。そんな中で、2025年度には制度化され2026年4月1日からは、子ども・子育て支援法に基づいて利用に対する乳児等支援給付がスタートし、本格実施の動きとなります。そうなるとすべての市町村での実施となります。利用する園は自由で特定する必要もなく、子どもが保育者や園に慣れることが出来るのか?月10時間の保育で、どのような受け入れが可能だろうか?利用にあたっての事前面談は義務づけられていないが、安全に保育するには面談は必須であるべきではないか?など、受け入れるにあたりたくさん問題があります。本格実施に向けて、国や自治体で早急に課題の解決を行い、内容を示して行って欲しいです。

### <こばと保育園では>

- ・2024年度のニコニコバザーは、6年生までの卒園児にチラシを配布し、卒園児がたくさん来てくれ賑やかなバザーとなりました。0,1歳児の保護者がバザーで劇の出し物をしてくれ、この劇を通して保護者間の結びつきが強まったように感じます。また保護者会主催の父親懇談会や母親懇談会を開催し、クラスの垣根を超えて親同士の親睦が深められました。子ども、保護者、職員が手をつなぎ、一人一人を大事に保育していきたいです。
- ・職員が中心となり、「さくらさくらんぼ保育」について学習会をしました。学びを通して同じ方向で保育することの大切さをより感じました。そして、職員間の関わりを大切にしながら保育の質を高めていきたいです。
- ・古志原地区のボランティアの方と交流しながら、年長児が笹巻き作りを楽しみました。しかし、その後、「古志原ボランティアの解散」のお手紙が届き、干し柿作りは一緒に作る事が出来なくとても残念でした。地域に根ざす保育園であるように何かしら地域の方との交流が持てるような活動を考えていきたいです。

## 2024年度 事業報告（年間行事）

こぼと保育園

月	園内行事	保護者会行事	年長行事	その他
4	入園の集い			
5		奉仕作業、総会	合宿（こぼと1泊）	尿検査
6			笹巻きづくり	内科検診・歯科検診
7	七夕会	母親懇親会	大山合宿(1泊)	
8				
9	キャンプ(4,5歳児) おじいちゃん、おばあちゃんの会	奉仕作業		
10	親子運動会 (2歳児～5歳児)		三瓶登山合宿（1泊）	
11	親子運動会 (0、1歳児) 芋煮会	バザー	干し柿作り	松江市一斉開放日 内科健診・歯科健診
12	クリスマス会	餅つき大会 (3.4.5児)	合宿（こぼと1泊）	
1		父親懇親会		
2	節分		雪山体験 松江部合同リズム (こぼと2泊)	新入園児面接
3	卒園式		合宿（こぼと1泊）	

\* クラス懇談会 各クラスによって随時

\* 避難訓練・消火訓練毎月1回（年1回不審者対応）

\* 誕生日会・お弁当の日・身体測定・・・月1回

## 2024年度 りす組（0歳児）年間総括

### 保育目標

- ・眠る、食べる、遊ぶのリズムが安定し機嫌よく生活する
- ・保育士との信頼関係を大切にし、情緒の安定を図りながら意欲的に生活する

### <生活>

・食事は年度当初より手掴みでおかわりもして意欲的に食べる。1歳になり苦手な食べ物出てきたが好きなものを食べた後、苦手な物も食べる姿がある。

入所時、離乳食が進んでいない子が多く見られたが、園で個々に合わせて大きさや形を給食担当と話し合いながら進めていくことでよく食べるようになっていった。意欲もみられるようになり手づかみでよく食べる姿に変わっていった。

・産休明けの入所など月齢の小さい子が数人入ってきていたので静かな環境をつくっていったがまとまって寝にくい子もいた。月齢の大きい子は一定時間よく寝るようになる。

・排泄はおしっこが出ると下を見たり、濡れたズボンを抑えたり、パンツを脱ごうとしたり後半は「ちっち」と教える子もでてきた

・着脱は1人の子がパンツを脱ぎ始めると数人の子がパンツを脱いだりはこうと片足を入れたり「やだ」といって自分ではきたい思いを伝えて大人の手伝いを嫌がる子が多くなっていった。洋服も自分で着ることを楽しんでやっていた

### <遊び>

・室内での探索活動から始まり廊下にある水道で水を求める姿があったり給食室をのぞいたり遊戯室で大きい子がやっているリズムを見たり個々に行きたい所に行っていた。

・芝生から自ら園庭に出て行くと砂遊びをしたり水場に行ったりして水遊びを遊んでいた。

・春は散歩車を使い散歩に出かける、新入園児も泣き止み、自然物に興味を持つようになる。後半は歩行を確立した子も多くなり歩いて散歩を楽しんでいった。指さしで興味あるものを教えてくれ保育士と共感し楽しむことができた

### <リズム>

・部屋や芝生でロピアノ歌い楽しんでやっていた。後半はやりたいリズムをリクエストするようになる。遊戯室でも伸び伸びとやる子どもたちだった。模倣も上手になりたのしんでやっていた

### <保護者支援>

・信頼関係を築くことを大切にしていた。今年度もバザーなどの行事があり初めての保護者も多く丁寧に説明をしていった。保護者の中には保護者自身が不安定だったり子どもへの心配が大きかったりする家庭もあったので日々の送迎時に話をしていた

### <反省>

・複数担任なので連携を大事にしていた。日々子どもの話をしていき手立てについて話ができ良かったと思う。保育について学習する時間をもう少し持つてもよかった。

## 2024年度 うさぎ組（1歳児）年間総括

- 保育目標
- ・保育者と一緒に水・砂土に触れて遊ぶ
  - ・生活や遊びの中で自分でしようとする

### <生活>

- ・年度当初より手づかみ食でよく食べる。完食しておかわりする子も多い。苦手なもの「見ててね」「ピカピカだよ」と食べようとする姿が増える。食べ終わると、食器を片付けたり椅子をしまいに行くが姿が見られる。
- ・年度当初からよく寝る子どもたちだった。秋頃から自ら布団に入り一人で寝付けるようになった子もいる。
- ・着脱では、興味が出るまでに時間がかかる子もいたが、自分でできるようになる。年度当初は、保育者に頼る姿が見られたが、見守ることを大切に、大人が手を出し過ぎないようにした。後半はどの子も「自分で」と保育者が手伝うのを嫌がり、意欲的に着替えるようになる。

### <遊び>

- ・1年を通して、水、砂、土に触れて遊んできた。年度初めはなかなか外に出たがらない子やフラフラと探索を楽しむ子が多かったが、一対一でのゆったりとした関わりや繰り返し遊ぶ中でじっくりと遊び込めるようになった。泥んこ遊びや砂遊びが好きになり、「まだ上がりたくない」と夢中になって遊ぶようになる。
- ・後半は少人数で散歩に出掛ける。大人数で散歩に行く時とは違う姿が見られたり、一人一人の姿をしっかりと見ることができ良かった。たんぼぼやしいの実拾いをし、自然物にもよく目が行く子どもたちだった。3月には全員で旧園舎にも行けるようになり、足腰も強くなったように感じる。

### <リズム>

- ・「ランランする」と毎日リズムを楽しんでやっていた。前半は見ているだけの子もいたが、保育者や友だちの姿を見て、少しずつ好きなリズムに参加するようになる。後半から「リズムするよ」と声を掛けると半袖、半ズボンに着替えるようになった。身体が大きくなってくると、うさぎ組の保育室よりも遊戯室の方がのびのびと走り回れて楽しんでいたように感じる。

### <保護者支援>

- ・まずは保護者と信頼関係を築くことが大切だと思い、送迎時に子どもの様子や成長を伝え、共に喜び合った。個人面談も行い、ゆっくりと話を聞く時間を設けた。

### <反省>

- ・大人が手を出しすぎないようにしようと担任間で話し合い、子ども達の「自分で」と言う思いを大切にしてきた。子どもたちの様子や気になることがあった際には、その都度話し合い、連携を取ることができたので良かった。

## 2024年度 こじか組(2歳児) 年間総括

保育目標・一人ひとりが安心して園生活を送り、自分を出せるようにする。

- ・基本的な生活習慣の自立を目指し、身の回りのことを自分でしようとする。

### <生活>

食事・夏頃からよく食べるようになる。苦手な物も自ら食べられるようになった。準備や片付けも進んでるようになっていった。

睡眠・布団は自分で敷いたり、押し入れまで持ってくるようにしていた。寝付くのに時間がかかる子やぐっすり眠れない子が何人かいた。

着脱・服や衣服の着脱は自立した子が多い。ジャンパーもチャックが自分でできるようになったり、友だちにやってあげる姿も見られた。

排泄・自立している子が多く、自らトイレに向かっていた。

### <あそび>

園庭遊び・泥団子作り、泥遊び、水遊び、砂遊び、ままごとなど積極的に園庭に出て遊んでいた。ごっこ遊びが盛んになり、友だち同士で遊べる子が増えた。汚れを気にしている子も繰り返し遊んでいるうちに気にせず遊べるようになってきた。

散歩・秋ごろから散歩に積極的に出かけた。近場のルートから歩き、遠くの公園などにも行けるようになった。自然物に目がいく子も多く、子どもたちが見つけられることも多くなっていった。

友だちとの関わり・友だち同士の関りが増え、子どもだけでもごっこ遊びが盛り上がるようになっていった。トラブルもあるが手が出ることは少なくなり、言葉でやりとりできるようになる。

絵・丸が閉じ、顔や頭足人を描く子が増えた。丸が閉じた子からマジックに移行していった。描くことは好きな子が多く、楽しんで描いていた。

### <認識>

言葉・自分の思いを言葉にできる子が増えた。トラブルでは手が出るものがほとんどなく、言葉で伝えようとしている。

絵本・集中して見られる子が多い。後半は長めのお話も読んでいくようにした。全体で見にくい子は個別で読むなどしていった。

### <リズム・ロール>

リズム・身体を動かすことが好きな子が多く、楽しんでリズムに参加していた。年長リズムへの憧れもあり、模倣したり、友だち同士で楽しむ姿がある。

ロール・後半、朝の時間に取り入れていくようにした。ロールは好きな子が多く、子どもたちから並んでいく姿があった。身体が硬いと感じる子は丁寧にマッサージしていった。

### <保護者支援>

- ・クラスだよりや連絡ノート、送迎時に口頭で子どもたちの様子をしっかりと伝えていくようにした。毎日少しでもコミュニケーションを取るようにし、信頼関係ができたので良かった。個人面談も行き、保護者としっかりと話すことができたので良かった。懇談会は毎回半分くらいの参加があり、保護者同士の関わりも増やすことができたので良かった。懇談会などで学習会も取り入れていけたら良かった。

### <反省>

- ・1人ひとりの思いをしっかりと受け止めることを大切に子どもたちと関わっていくようにした。自分の思いを保育者や友だちに言葉で伝えられたり、自分を出せるようになった子が増えていったので良かった。気になる子にはもっと個別に関わる時間を取っていきかけた。
- ・自立に向け、待ち、見守ることを大切にしていた。甘えも受け止めながら子どもたちの姿をしっかりと認めていくことで身の回りのことが自らできるようになっていったので良かった。

## 2024年度 こぐま組（3歳児）総括

### 保育目標

基本的生活習慣を身につけ、友だちと楽しく生活する

#### <生活>

全体的に生活に見通しを持って過ごすことができる子が増える。自分の持ち物がどこにいったか分からなくなる子がいたが、自分で探したり把握したりすることができる子が増える。気持ちのムラがあり、次への活動へ時間がかかる子もいる。

食事～全体でよく食べるようになる。スムーズに食べておかわりする子がだいたい決まっている。苦手な物が出ると全く進まなくなり、時間がかかる。食べる姿勢に子ども自ら気づき、スプーンを下から持ったり皿やおわんをきちんと持ったりしようとする子が増える。

排泄～全員トイレに行き、自分で排泄できる。排便時は自分で拭けない子がいる。

睡眠～寝入りは全体的に良い。一年を通して寝つきにくい子がいる。

#### <遊び>

庭遊び～年度当初、泥で汚れることに抵抗があった子も慣れてよく遊ぶようになる。子どもだけでダイナミックに泥あそびできるようになる。スコップなど道具を使いながら遊ぶことも楽しむようになった。

プール遊び～水がかかることに抵抗があった子も少人数で繰り返し入っていくうちに水に慣れ、全員が潜れるようになった。

散歩～一年を通して散歩にたくさん出かけてきた。緑山公園に繰り返し出かけ、起伏のある道や山道、斜面など色々な道を歩いてきた。距離も長くしていき、歩く速さに差が大きくあったが全体的にしっかり歩けるようになった。山登りも秋と春に出かけることができた。

制作～季節が感じられる物を作るようにしてきた。折り紙製作が多くでき、繰り返すうちに手先が器用になっていった。ハサミを使うこともしていったが、上手く使いこなせない子もいた。

仲間～穏やかなクラスだったので喧嘩やトラブルもあまりなかったが、夏頃から自分を出し、友だちに対して思いをぶつけるようになる。保育士に仲立ちになってもらい、思いを伝え合うことを繰り返すうちに子ども同士で喧嘩になっても解決しようする姿が多くなった。

#### リズム

全体的に楽しんで参加する子が多かった。参加せず見ている子がいたが、運動会後から意欲的になり、参加するようになる。自分が苦手なスキップやけんけんなどは参加しにくい子がいる。

#### <ロール>

一年を通してロールをたくさん行うことができた。初めは緊張していた子もいたが、全員が脱力してできるようになった。

#### <自己評価>

年度当初から身の回りのことや生活への見通しは自分でできる子が多かったので声かけはなるべく少なくしていき、難しい子には丁寧に寄り添っていった。全員が見通しを持って身の回りのことも自分でできるようになっていった。身体の内でも一年を通してしっかり全身を使いながら遊ぶように考えていった。庭で泥んこ遊びをダイナミックに遊んだり、散歩に繰り返し出かけていたりし、足腰が強くなってよく歩くようになった。

## 2024年度 ばら組（4歳児）年間総括

保育目標 友だちの中でいろいろな思いを経験する

### <生活>

- ・食事 全体的によく食べるクラスで、どの児もおかわりして食べていた。箸へ移行したあとも上手に使うて食べている。
- ・睡眠 寝つきにくい児も多かったが、落ち着いた時間を過ごしている。
- ・排泄 年度当初は男女問わずズボンが濡れている児もいたが、そのようなことは少なくなった。

### <遊び>

- ・散歩 沢山出掛けることができ、体力もついた。登山にも3回出掛けた。自然物を見つけることも好きになった。
- ・園庭 大小スコップを使ってよく遊び、友だちと一緒に大きな山やダムを作って楽しんだ。
- ・集団遊び 散歩先でタッチ鬼、バナナ鬼、しっぽ取りなどを楽しんでいた。
- ・プール 顔付けができなかった児ができるようになった。開放的に遊ぶ姿が印象的だった。
- ・絵 絵を描くことが好きなクラスだった。個人持ちマジックになってからはより描きたい気持ちが湧いたように思う。

### <認識>

- ・製作 年度後半に活動に取り入れてきた。不器用な児もいるが、繰り返し作ることで自分のものに出来る児が多かった。意欲的にしていた。
- ・お話 お話の時間が好きになった。男児たちは「おいしいのぼうけん」「シートン動物記」をよく聞いていた。女兒は何でも楽しめた。
- ・言葉 全体に向けての指示が入りにくい児もいたので丁寧に関わっていった。

### <リズム・ロール>

- ・リズム リズムが好きな児が多く、年長児の姿に憧れていた。
- ・ロール 毎日することを心掛けた。

### <評価反省>

生活面は丁寧に見ていくことができたが、集団遊びを遊び込めなかった。

### <保護者支援>

秋に個人面談を行ったが、送迎時などの日々のやり取りも大事にしてきた。

## 2024年度 ほし組(5歳児)年間総括

保育目標・・・目標に向かい力を合わせて活動し、達成感や充実感をみんなで味わう

### <生活>

- 食事 全員が揃ってから食事をするようにしたが、集まりにくい時などは、グループごとに食べるようにした。食べる量が増え、お代わりをよくして残食がない日々となった。依然として食べるペースがゆっくりな子はいた。
- 睡眠 ほとんどの子が一人で寝られるようになるが、寝かしつけが必要な子、入眠に時間が掛かる子がいる。
- 当番 子どもだけで当番活動が出来るようになる。中には当番に参加しにくい子の姿があったが、担任と一緒に活動に参加できていた。グループごとの結束も見られるようになった。

### <遊び>

- 集団遊び 年度後半にドッジボールを始める。みんなが参加しやすい転がしドッジから始めたが、月齢の低い子、女兒も含めて全員で繰り返し楽しんだ。その後ドッジに移行したが、鉢巻きを締めて全員で盛り上がり楽しんですることができた。特に男児はやる気にみなぎる姿があった。
- 散歩 散歩に出ると自然物を見つける度に足を止めて夢中になって採る姿があった。のびる、冬苺、むかご等、採るのも食べるのも大好きだった。歩く距離も伸び、八重垣方面には度々行くことができた。前後の間もあまり開かなくなり歩くペースがゆっくりだった子もしっかり歩けるようになった。

### <課題>

- 縫い物・・・縫い物が好きで、一枚目の雑巾縫いが終わってからもっと縫いたいと言う声が多くあり、他クラス用に雑巾を縫ってプレゼントをした。テーブルクロス縫いにも挑戦し、大きな布を二枚みんなで縫い上げた。
- 染物・・・マジック袋、テーブルクロスを琵琶の葉染め、まり袋を桜の落ち葉染めで作った。まり袋染の際は保護者さんに指導してもらって行った。
- 天の川、モール作り・・・ハサミを上手く使いこなせず、集中が切れてしまう子、何度も切り落としてしまう子がいた。
- 竹馬・・・11月に竹馬作りをし、遊びを始める。すぐに乗れない為なかなか向かう姿が見られなかったが、友だちが乗っている姿に刺激を受けて挑戦する様になった。少し乗れると楽しくなり、どんどん歩けるようになり、高さも上げ悠々と乗り歩き楽しんでた。
- 絵 更紙にはあまり向かえなかった子もみ和紙が始まると、自ら描くようになる。全体的にもみ和紙の方を好み、沢山の枚数を描き上げていた。お話の絵も沢山見られた。

### <認識>

- お話 年度後半のお話は、静かに聞き続けられない姿は多かったが、沢山の子が絵のないお話を楽しんで聞くことができていた。

### <表現>

- リズム 年長リズムが入り、より意欲的にリズムをするようになった。友だちの素敵な姿に刺激を受け、もっと素敵になりたいと憧れの気持ちを持ってリズムをする。後半にはしなやかさも出て、きれいな蝶をしていた。
- 歌 新しい歌を覚えて歌えるようになり、歌を歌うことが楽しくなる。歌を中心とした劇遊び「カエルの豆太」を6月に楽しんだ。独唱する子も含め、一人一人が堂々と歌い劇を成功させた。その経験からもつと歌が好きになり、年間通して沢山の歌を元気よく歌うことができた。

### <保護者支援、自己評価>

年長になり、やっとクラスがまとまったと感じられる一年であった。課題にとらわれず、遊びも取り入れながら充実した日々を送ることができた。保護者さんを巻き込むことも支援と考え、染物や竹取り、引率など協力してもらった。保護者さん自身も楽しみながら参加して下さり、気持ち子どもたちへより向いたと感じられた。

## 2024年度 児童クラブ年間総括

### 保育目標

- ・ありのままの自分を出せ、互いに認め合えるような関係作りをする。
- ・みんなで楽しく生活できるように自分たちで考え、行動する力を身につける。(自主性・社会性・創造性の向上・基本的生活習慣の確立)
- ・友だちや大人の話をよく聞き、考えて行動する。

### <生活>

- ・自分の物の管理がきちんとできるように下駄箱やロッカーなど使いやすく整理をしたり声をかけていったりした。毎日行うことで自分の物の管理が定着していった。また、みんなで使う物が大切に使えない姿があった。物を減らしてみた。減らすことで管理がしやすくなり使ったものを片づけることが定着した。片づける時間になっても遊び続ける姿があったが、時間をみながら動けるようになり生活にメリハリがもてるようになった。
- ・保育園のおやつを嫌がる子がいた。「食べたくない。」「いらない。」と寂しい声があった。食べる場所を決め、学年ごとに集まり食べることにしてみた。自分のことが中心の子が多かったが仲間を思いやる姿がみられおやつに食べに来るようになった。準備された量も食べられるようになり残食がなくなっていった。麺の日は人気がありおかわりをしてよく食べていた。クッキング行い作り食べるのを喜んでいて、畑では野菜を育てた。自分たちが育てた野菜は喜び食も進んだ。
- ・全員で集まることに時間がかかることが多々あった。子ども達に気づいてほしいと待つことを大事にしてきた。春休みは集まりも早くなり、1年の成長を感じた。また、話が聞けない姿も気になっていた。春休み、みんなが静かに大人の話や友だちの話が聞けるようになり嬉しく思った。

### <遊び>

- ・1年を通して一つの遊びに夢中になって遊ぶ姿を沢山見せてもらった。子どもが主体的に遊んでほしいと願い大人が率先して引っ張って行くのではなく見守ってきた。子ども同士で遊ぶことで仲間も深まり男女学年関係なく遊んでいた。後半ペットボトル蹴りや一輪車が一部の子ども達で盛り上がったが、気づいたら沢山の子ども達でペットボトル蹴りをしたり、女の子ばかり挑戦していた一輪車を男の子も挑戦したりするようになった。楽しい遊びが広がっているのを感じた。遊びの中のトラブルも高学年が仲立ちをしてくれ子ども達で解決をすることが多かった。
- ・ドッチボールが定番になっていたが、後半はフリスビードッチや男の子たちは外でのサッカーをするようになった。サッカーは雨の日も雪の日も夢中になるほど盛り上がった。砂利の公園でやることでボールはすぐにボロボロになったが、補修して大事に使う子ども達の姿も嬉しかった。今ある物を大事に使う子ども達へととなりとても嬉しかった。
- ・カードゲームでは、トランプのスピードが流行った。高学年が中心になってやっていたが低学年もやり方を知ると挑戦していた。異年齢保育の良いところを感じ刺激をもらっていた。
- ・工作が好きな子も多く、紙や段ボールなどを使って色々な物を作って遊んでいた。工作の上手な子が先生になり教え合い学年関係なく交わり合って遊ぶ姿が良かった。

### <保護者支援>

- ・保護者会役員さんと児童クラブと一緒に夏祭りレクをした。保護者さんにはダンスや肝だめしを担当してもらった。大人の本気の姿を見せてもらい喜んでいて。大盛況で終わることができ良かった。
- ・送迎時に保護者さんとコミュニケーションを大事にしてきた。些細なことでも伝え合い子どもの事を知ってもらい共感できた。
- ・トラブルが合った時には丁寧に対応するように心がけた。
- ・懇談会で保護者の方も色々と話がしたいのが伝わってきた。短い時間だったが色々な話が聞けて良かった。

### <自己評価・反省>

・日々学校で疲れて帰ってくる子ども達にとって心地よい場所になってほしいと保育をしてきた。学校から元気に帰って来てくれる子ども達の姿が嬉しく、子ども同士の関わりも深まり、放課後の生活を共にし、仲間との遊びも楽しんでいる姿が沢山見られた。穏やかに過ごす時間も増え一人ひとりの成長を感じることもできた。

## 2024年度年度 保健年間総括

### (感染症対策)

4月、6月、3月に感染性胃腸炎が流行。嘔吐処理セットの確認、おたよりや日々の連絡ボードを活用し、保護者に情報提供を行った。7月にはRSウイルスとコロナウイルスの同時流行が見られ、8月には手足口病が流行し、未満児にはほぼ全員に手足の湿疹などの症状が見られた。また、大人や以上児にも感染者がでた。10月から水ぼうそうが流行し、0歳児は約半数が発症し、全クラスで33名の感染者がでた。12月下旬からインフルエンザの流行が始まり、2月までに大人含め53名の感染者がでた。

コロナ前には予防接種の効果でほとんど水ぼうそうの流行は見られなかった。今年度は定期予防接種開始前と同様の流行が見られた。コロナ前に比べ、様々な感染症が流行し易い傾向がある。感染症対策としては保護者への情報提供、症状のある時の速やかな対応などのできる限りの感染対策を進めていく必要がある。

### (事故防止)

- |       |         |                                     |
|-------|---------|-------------------------------------|
| 4月10日 | 年長男児    | リズム中転倒し、前歯打撲、歯科にて固定                 |
| 4月11日 | 年長女児    | 鉄棒で前歯打撲、経過観察                        |
| 5月9日  | 2歳女児    | 滑り台から転落                             |
| 5月17日 | 4歳児男児   | 廊下を走っていてお友だちとぶつかる。舌を切創。             |
| 6月3日  | 1歳女児    | おやつのお餅を食べた。自宅にて嘔吐繰り返し。食道にお餅が貼付いていた。 |
| 6月24日 | 4歳女児    | タオルで遊んでいて転倒。歯の打撲。                   |
| 7月2日  | 2歳男児    | プールで転倒、左眼瞼テープ固定。                    |
| 7月2日  | 学童2年生男児 | ガラスを叩いて割れ、右前腕切創し、市立病院にて縫合。          |
| 9月5日  | 年長女児    | 縄跳びをしていて転倒。乳歯が抜ける。経過観察。             |
| 2月4日  | 学童6年生男児 | 夕方、遊戯室にてボールで足を取られて転倒。左肘骨折にて手術。      |
| 3月21日 | 学童2年生男児 | 大型遊具ロープから滑り落ち左手首骨折。                 |
| 3月25日 | 学習1年生女児 | 遊戯室でペットボトル蹴りをしていて転倒。右手の甲にひび。        |

事故防止に向けて事故報告書を記入し、内容を職員全員で確認、対策を考え、事故を繰り返さない。

ヒヤリハット報告書の活用で事故防止に繋げていく。事例の振り返りを行えるようワークショップを行っていくなどの工夫をしていきたい。

### (緊急対応)

1歳男児 給食を食べた後全身発赤疹出現し、緊急受診

### (保健行事)

内科健診、歯科健診、春秋実施 看護師会参加6月、11月、4月 検尿5月 ほけんだより

### (評価、反省)

感染症が流行し易い状況が続いている。コロナ禍では手指の消毒などの対策が出来ていたためか感染症の流行が極めて少ない状態が続いていたが、昨年度あたりからは、コロナ禍以前よりも様々な感染症の流行が見られる。引き続き感染対策をしていきたい。事故防止についてはヒヤリハット報告書の活用がまだ不十分なこともある。また、窒息事故などの危険が以前より高まっている。こどもたちの状況の把握を適切にできること、職員のスキルをアップができるような働きかけをしていきたい。

## 2024年度 給食室年間総括

### ◎年間目標について

旬の食材を味付けや切り方、見た目を変えて繰り返し使うことによって、最初は食べられなかった食材も食べられるようになった。また、散歩で採った野草や、畑で収穫した野菜を担当が工夫して調理することによって、食べ物を通して季節を感じる体験ができていた。

### ◎献立について

旬の食材を使った季節感のある和食中心の献立を作成することができた。おやつは4番目の食事と捉え、おにぎり・団子・芋などを中心とすることができた。調理員が少ない日はおやつを外注（四葉園のパン）して対応した。また、良い給食を作るだけでなく、家庭での食事作りの参考になるような献立・おたよりの製作にも努めた。1月、2月、3月で年長ひとりひとりからのリクエストメニューを献立に取り入れることができた。子どもが自分のリクエストメニューを楽しみにしている気持ちを考慮し、リクエストしたメニューの園児が当日休みだった場合は翌月に同じメニューを取り入れた。前年度の献立表をベースに献立作成することで、考える時間や、ソフトに入力する時間を短縮させた。お盆休みや正月休み明けなど、長い休み明けの献立は子どもたちが食べやすい献立にするようにした。

### ◎調理について

感染症が流行して子どもの欠席が極端に多い時があったが、給食の発注を中断したり、メニューの変更をしたりして柔軟に対応することが出来た。天候や災害による食材の値段の高騰があったが、納入業者の方が食材の情報を親切に教えてくださったり、規格外に近いような食材（安価）を納品してくださった。また、食材も年間通して変動の少ない食材を使い、給食費になるべく影響がでないようにした。年度途中から調理員が1人産休育休に入り、1人減で作業を行う日もあるが、献立を手のかからないものにすることで作業に支障が出ないようにした。合宿のまかない作りでは、年長保護者も加わり、和気あいあいと作ることが出来た。

### ◎アレルギーについて

誤食を未然に防ぐために、アレルギーを意識した献立（アレルゲンの使用頻度を減らす）をたてることができた。また今まで小麦粉を使ってケーキ類を作っていたが、米粉を使って作るようにした。アレルギー児がみんなと同じものが食べられる安心感や、アレルギー児をもつ担当が安心して給食を食べさせる気持ちを考慮することができた。担当がいない土曜保育の時は、必ず代替食を作らなくてもいい献立をたて、事故がないように努めた。

### ◎保護者とのかかわり

給食懇談会ではクラスごとに開催し、懇談会まで残れる方のみでの参加としたので、多くの保護者と意見交換することができた。こぼとの給食で大切にしていること、クラスの子どもの給食の様子を伝え、保護者さんに家庭での子どもたちの様子を話してもらい、和気あいあいと話をすることができた。

### ◎その他

今年度は、給食の時間に各クラスに子どもたちが食べている様子を見に行くことがほとんど出来なかったことが反省点である。

2024年度 苦情受付(こぼと保育園)

番号	受付年月日	相談者	苦情・要望内容	解決状況
1	4月16日	利用者家族 複数名 (4歳児ばら組)  *連絡ノートに記載	クラスの役員決めの懇談会があったが、懇談会前に当日欠席の保護者の方で、すでに係が決まっている人がいた。役員、係を決める懇談会なのにあらかじめ決めてあるのはどうなのか？懇談会に出席している人を優先的にして、その場で決めていくのが本来のやり方ではないのかと思う。	該当保護者に対して、今回の懇談会の持ち方についてお詫びをした。また、懇談会での役員や係決めのやり方について、職員間で話し合いを行い、今後は、特定の保護者に声をかけるなどして事前に係等決めないようにしていくことを確認した。
2	5月21日	利用者家族母親 (2歳児こじか組)  *連絡ノートに記載	夕方、迎えに来た時に靴が見当たらないことが多い。早く帰りたいが、靴が見つからずついイライラしてしまう。夕方、靴箱に入れることはできないか？	保護者にお詫びをし、今後は、子どもたちに靴を靴箱に片づけるように声をかけるとともに、保育士も夕方靴が靴箱にあるか確認することを伝えた。
3	11月27日	利用者家族母親 (2歳児こじか組)  *連絡ノートに記載	服装について、昨年度の冬に手足や唇が青くなったり便が緩くなったりしていたため、冬はトレーナーを着せてほしい。体作りのために薄着をするのは理解しているが、先日風邪気味の日に薄着だったので、配慮してほしい。	保護者と面談を行い、風邪気味の日に薄着で過ごしていたことにお詫びした。またこれからも体作りのために薄着は推奨していくが、一人一人の体調を見ながら、保育士が気にかけて調整をしたり声をかけたりしていくことを職員間で確認しあった。
4	2月25日	利用者家族母親 (4歳児ばら組)  *連絡ノートに記載 (松江市にも衣服がなくなったことや延長料金について苦情の連絡あり、園長が対応をする)	土曜保育申し込み用紙を連絡ノートに挟んで提出したが、利用日当日に保育士が「用紙提出がされていない」と言っていたということを子どもから聞いた。申し込み用紙はノートに挟んで提出したはずだが、確認をしてほしい。	保護者の方と話をし、申し込み用紙が提出されていたことを確認し、お詫びをした。後日、見当たらなくなっていた申し込み用紙が見つかり、保護者の方に用紙が見つかったことを伝え、再度お詫びをした。また今後は、このようなことがないように申し込み用紙を直接保育士に渡してもらうように該当保護者をお願いをした。

## 2024年度 苦情受付（児童クラブ）

指導員が今年度も交代したが、保育園の時に担任していた子ども達が多くいたので、子どもや保護者との信頼関係が出来ていた。保護者と一緒に企画しながら、児童クラブだけの夏祭りを夏休み中に開催することができ、子ども達に大好評だった。

苦情と捉える項目はなかったが、「夕方の時間に、もう少し遊びの時間があるといいな（旧園舎から新園舎の移動時間がもう少し遅いといい）」という声はあったが、夕方の時間については懇談会等で話し全体に伝えた。また、小4から保育料が日割り計算で対応してもらえたらという要望はあったが、今の段階ではなかなか難しいとお話した。

保護者と話す機会を大切に、子ども達の様子を伝えることを大事にしてきた。

これからも子ども達のことを一番に考えながら、心身共に健やかに育つ児童クラブにしていきたい。

---

# 放課後等デイサービスぽっぽ

2024年度事業報告

---

## 2024年度 放課後等デイサービス ぽっぼ事業報告

〈放課後等デイサービス ぽっぼ・おりーぶ ぽっぼ・ぴーす ぽっぼ・のあ〉

### 【運営について】

2024年度も3つの事業所が定員を満たしてのスタートを切ることができた年であった。年度初めは利用人数が多く、これまでで一番の稼働率であったが、第3四半期に入るところには、徐々に利用が減ってきた。要因としては、ぽっぼ開設当初から利用していた児童たちが中学生になり、部活動や学校行事に勤しんだり地域の生活に戻っていったりと、放課後デイを『卒業』していく動きがあったことが考えられる。ぽっぼの特色として、軽度発達障がいと言われる子どもたちの利用が多いことから、自然な流れではあるかと思うが、このような事業所の特色を踏まえて、年度初めにはまた新小学1年生の利用児を募り、利用人数の安定を図りたい。また秋口からインフルエンザ等感染症が流行し、体調不良による欠席者が増えてきたことも大きな理由かと思う。致し方ない部分もあるが、感染症に対する予防をしっかりと所内で健康に過ごせるよう心掛けていきたい。2月末までの3事業所の稼働率平均は90.6%と、全国平均85.5%（2021）を上回る結果ではあった。

今年度も3つの事業所の連携を強め支え合って「全職員ですべての子どもの療育にあたる」というスタンスを、しっかりと職員間で共有していった。毎日の職員朝礼、LINEでの連絡等でそれぞれの動きを把握し、利用児・保護者の状態を全体で確認することができていた。それにより活動中や送迎等でのトラブル回避につながり、より連携した総合的な支援ができるようになった。

今年度も保護者研修会、保護者と職員の昼食会を開催することで、保護者の悩みに寄り添い横のつながりを深める場を提供できたのも好評であった。今後も真摯に誠実に本人支援・家庭支援に努め、安心して子どもの療育を任せられる事業所として精進していきたい。

### 【経営面について】

今年度は報酬改定により、加算要件が大きく変化した。特に大きな点として「療育を行った時間」の単位を平日でも2区分に分けられ、報酬単価に差がついたことがあげられる。これにより月々の収益に若干の変動があった。療育時間の長さは主体的に変えていくことはできないので（学校の教育時程や家庭の都合による）、収入としては読みづらいものだった。ただ、今年度も3事業所とも「児童指導員等加配加算」を取得することができたことに加え、おりーぶ、ぴーすの2事業所については新たな加算要件である「専門的支援体制加算」を取得できたことで、時間区分による加算の減少を補うことができたと感じている。キャリアと資格のある常勤職員を確保していることで、この二つの加算が取れていることが収入増につながっていると言える。

支出については、今年度は「JKA 補助事業」により新車両の導入をすることができた。車輛取得、維持、運行費については今後も必要経費である。その分光熱費、事務経費等の無駄を省く意識を高めていきたい。今、行っている経費削減策としては、職員会等の資料の印刷を止め、すべての資料をPDFデータでスタッフLINEに送り、コピー用紙、印刷費をカットすることが挙げられる。今後も療育にかかわらない事務的な経費については、無駄を省き効率的合理的に運営していきたい。

令和6年度 児童発達支援管理責任者自己評価・総括

放課後等デイサービス ぽっぽ・おりーぶ

児童発達支援管理責任者 坂本香織

□本年度の自己評価

<p>児童発達支援管理責任者の役割について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談員や学校、サポートノートを活用した医療との連携を積極的に行った。</li> <li>・ユニット会議、カンファレンスを定期的に行き、子どもの実態や課題を見極め、職員の意見を組み込んだ個別支援計画を作成した。</li> <li>・保護者の方が話しやすい、相談しやすい雰囲気やタイミングを作るよう努めた。</li> <li>・子どもや保護者との関わり方、勤務体制や職場環境などにおいて、職員が悩みを相談しやすい雰囲気づくりに努めた。また特定の職員に負担が偏らないよう、業務の分担を行った。</li> <li>・新規採用者の配属において、より丁寧な指導に努めた。</li> </ul>
<p>活動内容 療育内容について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広い支援室、園庭を活用し、1年を通して体をしっかり動かす活動を取り入れた。</li> <li>・季節の行事やイベント等を取り入れ、子どもも職員も意欲的に活動できるよう工夫した。</li> <li>・利用児の実態やその日の状態により活動内容の設定を臨機応変に設定した。</li> <li>・長期休みには海水浴や川遊び、公共の乗り物の利用や買い物など、家庭ではなかなかできない体験活動を実施した。</li> <li>・カンファレンスや日々のうち合わせで子どもの実態や課題を話し合い、高すぎる目標の設定や過剰の支援にならないよう、職員間で共通認識をもって療育に入れるようにした。</li> <li>・利用時の状態や関係性を考慮し、より適切な環境になるよう、必要に応じて部屋の構造化を行った。</li> </ul>
<p>安全管理について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動中の危機管理としてヒヤリハット報告書を用いて、職員全体で危機意識をもてるようにした。</li> <li>・施設・設備等の点検を定期的に行い、利用者が過ごす環境の安全管理に努めた。</li> <li>・定期的に避難訓練を行い、職員、利用者の防災意識を高めていった。また避難訓練に合わせ、非常食、避難所体験を取り入れることで、自分のこととして防災意識を高められるようにした。</li> <li>・外階段、玄関付近は天候によっては滑りやすい状態になるので、貼りだしや声をかけて注意喚起した。</li> </ul>

□総合評価

- ・年間目標、各個別支援計画に基づいて活動・療育を行うことができた。
- ・利用者ひとりひとりの状況や発達段階に応じた療育を行っている。適宜保護者の思いや困り感、ニーズについて把握し、所内相談を行ったり関係機関と連携して専門的にサポートできるよう努力した。

□保護者アンケート結果

- ・活動や療育の内容については、全般的に理解を得られている。
- ・療育環境についても、概ね好意的な評価をいただいている。
- ・バリアフリー環境に関しては、マイナスなご意見が多かった（建物の構造上難しいが）
- ・個人的な意見については、相談員、管理者の同席のもと、保護者に個別に説明の時間を設け、理解を得らえるよう努めた。

□今後の課題

- ・おりーぶは定員いっぱいである。さらに空きを待たれている方もおられる。利用日の調節や療育にあたる優秀な職員の確保に努め、利用される方の希望に添えるようにしていきたい。
- ・人数も増え、学年、特性、興味の内容も多岐にわたるので、さらに療育内容を厳選していく必要がある。
- ・療育内容については、良い活動は引き続き取り入れていきたい。それと同時に、新スタッフを含む新体制スタッフの意見をみんなで出し合いながら、新しい内容も取り入れていきたい。
- ・さまざまな特性を持っている利用児が通所されるので、職員の資質向上のための研修に力を入れていきたい。

令和6年度 児童発達支援管理責任者自己評価・総括

放課後等デイサービス ぽっぽ・ピーす  
児童発達支援管理責任者 別所真祐子

□本年度の自己評価

<p>児童発達支援管理責任者の役割について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療や学校との連携を積極的に行った。また、今年度はリハビリを受けている子もあり、ぽっぽでの作業面・言語面の姿を写真を付けてお伝えするようにした。その文書を見た上でリハビリからのアドバイスを頂いたり、リハビリの報告書を頂くこともあり、その子への連携した支援ができたと思う。これが保護者の安心感にも繋がっている。</li> <li>・相談員とは長い付き合いになってきており、ご家庭の状況や本児の様子など、密に相談し合える関係になってきているように感じる。相談支援事業所によっては、学校や保護者を含めた支援者会議を積極的には行わない事業所もある。そういった場合にはぽっぽが主催して支援者会議ができるような力もつけていきたいと思う。</li> <li>・職員間でも積極的にコミュニケーションをとり、相談し合える関係性を築いていけるよう努めた。今年度は、てんかん発作が頻回に起こる子がいて、不安感を抱く職員もいたが、てんかんについての説明や、実際のてんかん時の動画もとり、対応の仕方などしっかり話し合いができたと思う。</li> </ul>
<p>活動内容 療育内容について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気の良い日には、庭や公園でしっかり身体を動かして遊ぶことができた。ぽっぽ舎の庭では、ちいぽっぽの子どもたちと一緒に遊ぶこともあった。公園や旧小鳩園舎では、児童クラブの子どもたちと一緒にサッカーや大縄跳び、鬼ごっこをする姿も以前に比べて多く見られるようになった。</li> <li>・子どものその日の心の状態を考慮し、関わりかけたり、時には過剰な刺激を与えないようにしたりと、職員間で連携し、子どもが気持ちよく、安心できる居場所となるように心がけた。</li> <li>・知的学級の子が多く、成長するにあたり、人より「できない」と感じている子が多い。普段から何気ない生活の中でも「仲良くできたね」「楽しいね」「できたね！」と子ども一人ひとりを認める声かけを心掛けた。今後も自己肯定感を高めることができるよう、支援していきたい。</li> <li>・週5で安定的に利用する子どもが多く、子ども・保護者ともに親戚のような話しやすい存在となり、相談も受けやすい関係性ができているように感じる。距離が短すぎないよう、距離も保ちながら、良い関係性で子どもたちへの支援がより良いものとなるよう、今一度気を引き締めていきたい。</li> <li>・ピーすマーケット(パンの物販)では、役割分担をして、しっかり自分の役割を果たす経験ができた。物販に来てくれた保護者の方やちいぽっぽの職員にも温かい目で見えていただき、感謝している。</li> </ul>
<p>安全管理について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の中や個人情報管理の危機管理としてヒヤリハット報告書を用いて、職員会で共有した。</li> <li>・気になる危険個所等があると、すぐに報告をし、対応できる関係性である。</li> </ul>

#### □総合評価

長期休暇になると「やったー！朝からぼっぼだ！」と喜んでくれたり、保護者が仕事の休暇でぼっぼを休むことを促した場合に「ぼっぼに行く！」と言う報告を受けたりすると、私たちの目指している「安心できる居場所」「楽しい場所」として機能できているんだなと感じることができる。

日々友だちや職員と関わる中で、自分の気持ちと相手の気持ちの差を感じ、気持ちの葛藤を経験することもある。そんな葛藤にすぐに手出しはせず、ある程度見守る中で、子どもが自分の力で乗り越えることへの支援もできた。これは、職員間でコミュニケーションがとれているからこそ、しっかり見極めて、良いタイミングで関わりかけることができたのだと思う。

新年度となり、職員体制は変わるが、変わらずしっかりと話し合い、相談し合い、子どもたちへより良い支援が提供できるよう、心掛けていきたい。

#### □保護者アンケート結果

毎日楽しみに通っている、ぼっぼに行くために学校を頑張っているなど、概ね良い評価をいただいている。マニュアルについては「わからない」との回答が多かったので、年度替わりでどこにマニュアルを設置しているかの確認のお手紙の配布をした。

#### □今後の課題

びーすには、常に見守りが必要な利用児(誤食・てんかん・要介助等)がおり、毎日4名(児発管+職員3名)体制が必須。スタッフ1人の休みや所外会議があると、安全に療育をするには不安があった。ぼっぼ全体で休みのスタッフがいる際にフリーで入ることができるスタッフの必要性を感じている。

令和6年度 児童発達支援管理責任者自己評価・総括

放課後等デイサービス ぽっぽ・のあ  
児童発達支援管理責任者 増田紀子

□本年度の自己評価

<p>児童発達支援管理責任者の役割について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・療育内容を他の職員と連携しながら検討し、子どもたちが自主的に生活できるような見通しのもとせ方や活動環境の調整を行った。またひとりひとりの発達課題や保護者のニーズを捉えたうえで、カンファレンスや日々のミーティングの中で職員の意見をくみ取りながら個別支援計画の作成を行った。</li> <li>・日々の業務の中で職員の思いや困り感を把握し、利用児の対応のサポートを行ったり、役割分担の配慮を行った。</li> <li>・相談員や学校、サポートノートを活用した医療との連携を積極的に行った。</li> </ul>
<p>活動内容 療育内容について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用児の実態に合わせた活動内容を検討し、活動のマンネリ化を防いだ教材準備や活動設定を行った。また季節感の感じられるイベント等を取り入れ、職員と子どもたちが共に意欲的に取り組めるよう工夫した。</li> <li>・子どもたち自らが企画したイベントを実施し、達成感や充実感を味わう体験ができた。</li> <li>・長期休業中には、海や山など自然に触れ合う機会を作り、また外食や公共交通機関を利用した社会体験活動を多く取り入れて、家庭ではなかなかできない体験を計画して実施した。</li> <li>・個別の療育については、適宜カンファレンスを行い、子どもの発達段階や実態について共通理解をし、個別支援計画を基に療育を行った。</li> </ul>
<p>安全管理について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動中の危機管理としてヒヤリハット報告書を用いて、職員全体で危機意識をもてるようにした。</li> <li>・施設・設備等の点検を定期的に行い、利用者が過ごす環境の安全管理に努めた。</li> <li>・定期的に避難訓練を行い、職員、利用者の防災意識を高めていった。</li> </ul>

□総合評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間目標、各個別支援計画に基づいて活動・療育を行うことができた。</li> <li>・利用者ひとりひとりの状況や発達段階に応じた療育を行っている。適宜保護者の思いや困り感、ニーズについて把握し、所内相談を行ったり関係機関と連携して専門的にサポートできるよう努力した。</li> <li>・さまざまなイベント活動を企画し、子どもたちが自発的に動く場面が増えた。イベント活動を経験していく中で、「できない」が「やってみようかな」に変わり、子どもの自信に繋がる活動ができ、子どもたちの成長を感じることができた。</li> </ul>
---

#### □保護者アンケート結果

- ・活動や療育の内容については、全般的に理解を得られている。療育環境についても、概ね好意的な評価をいただいている。
- ・児童クラブや地域の他の子どもと活動する機会がないとの声が多数あった。こぼと学童の児童とは外遊びの際に一緒に活動をしているが、今後もお便り等でお伝えできるといい。

#### □今後の課題

- ・利用人数が増え、活動環境の調整が必要だと感じる。児童の実態に応じた活動設定や広い支援室があると、子どもが伸び伸びと過ごせると思う。
- ・中学・高校、その先を見据えた進路選択が必要となる中で、進学先となる学校の情報提供や将来に向けての自立や社会で生きる基盤を身につける支援が必要だと感じる。

#### 【保護者支援】

保護者を取り巻く環境も様々で、自身の悩みや問題を抱えている方たちも多くなり、お迎えの時には出来るだけ利用者児の様子を直接お話しする中で、保護者の話を傾聴する時間を設けている。支援計画更新の際の保護者面談だけでなく、相談員のモニタリングや学校との支援者会などでも、しっかりと対話の時間を確保するようにしている。

不登校の児童が家庭にいる場合、母子分離がなかなか難しかったりして家族の負担が大きい場合があるが、今年度は家庭や学校と連携を取りながら、午前中からの療育を行った。平日でも状況によって療育時間を長く確保することで、保護者支援に繋がっていると感じている。

今年度は10月に保護者研修会を、6月と2月にランチ会を開催し好評であった。次年度にも結び付けたい。

#### 【職員体制】

今年度も引き続き職員朝礼の時間を取り、当日の流れや子どもたちの状態について共有した。その結果をスタッフLINEで共有し、パート職員にも周知徹底を図ることができた。とができるようにしていった。

所内研修を適宜行い、「ぽっぽの療育」について皆が理解し職員全体が同じ方向を見て療育ができるようにしていった。所外研修についても（リモート研修含む）資格習得等のための研修に職員全員ができるだけ参加していった。

#### 【関係機関・団体や保護者との連携】

##### 1. 相談支援事業者との連携

・利用児の担当相談員に、月に一回、利用状況や利用時の様子について細やかに報告しているが、相談員には大変好評である。また、モニタリングや支援者会等を通じて連携を取ることもできた。日頃の当事業所の療育体制をよく知ってもらうことで、信頼を得ることができ新規利用者の紹介へと繋がっている。

## 2. 学校との連携

- ・利用児の様子に変化があった際など、送迎時に顔を合わせて、また電話のやり取り等で情報共有を行っている。また必要に応じて支援会議を開催し、今後の本人支援、家庭支援の在り方について共通認識をもつことができた。
- ・利用児が小学校を卒業し、中学進学する際に移行支援会議に参加し、進学先にもぼっぼでの児童の様子や本人、ご家族のニーズを伝え、今後の支援についても連携していけるよう配慮した。
- ・年度初めに、各在籍学校に挨拶文と利用児の名簿をもって挨拶に出かけるようにした。ぼっぼの様子や責任者、場所等をお伝えすることで信頼につながっているのではと感じている。下校時間、また時程の変更など、学校から細やかにFAXをいただいている。

## 3. 医療機関や専門機関との連携

- ・利用児の状況によって医療機関との連携も必要となり、保護者や学校の担任と共に医療同行をすることも多かった。必要に応じてサポートノートを作り、医療機関・学校・家庭・ぼっぼでの利用児の情報共有をすることもできた。
- ・リハビリに通っている児童に関しては、リハビリ担当職員と報告書のやり取りをし、ぼっぼでの療育の様子を伝えたり支援内容についてアドバイスや助言をいただいている。

## 4. 保育所・児童発達支援事業所等との連携

- ・新1年生の新規利用に際しては、移行支援会議を通じて、利用前の児童についての発達段階や家庭環境等の情報を予め知ることができ、4月当初からの療育に生かすことができた。

## 5. 他の放課後等デイサービス事業所等との連携

- ・併用している児童については、支援者会議等で情報共有を行うことができた。今後は共同でのケース会を開催したいと考えている。

## 6. 放課後児童クラブや自治会等との連携

- ・ぼっぼ舎横の公園と旧園舎の庭を共同で使用することで、こぼと学童の児童と日々交流することができた。障がいの有無や学年、男女関係なく、一緒にサッカーや鬼ごっこ、焚き火等を楽しむ時間が継続して在ることには大きな意義を感じている。
- ・近くに散歩に出たり、畑での活動をしたりする中で町内の方たちと挨拶を交わし、少しずつ関わりをもつようにしていった。今後は、近隣の方を「ぼっぼショップ」などへご招待することを目標としている。

## 7. 保護者との連携

- ・保護者との連絡用LINEを活用し、活動に必要なものの連絡や計画のご案内など、オンラインで保護者とのやり取りができるようにした。文書よりも迅速に伝わるので好評である。
- ・各ユニット便り、ぼっぼ通信、SNS等、積極的に活動内容をお伝えしている。

### 【情報提供、公表、相談、苦情解決】

- ・各事業所からのお便りで定期的に（月に1回程度）活動の様子を保護者にお伝えした。また各月で「ぼっぼ通信」を発行し、全体での取り組みや保護者研修会等の様子をお伝えした。
- ・各事業所で活動写真を廊下や入口掲示し、迎えの際に気軽に様子がわかるよう工夫した。

- ・半期に1度、各家庭に個人の写真データをお渡ししている。
- ・ガイドラインに基づく保護者評価・事業所評価を実施。文書で保護者に配布すると共にホームページに掲載している。
- ・障がい福祉サービス等情報システムにて公表。

#### 【緊急時対応、非常災害・防犯対策】

- ・利用児、関係機関等掲載の緊急連絡表を作成している。
- ・消防計画を周知するとともに年2回（火災・地震）の避難訓練をこぼと小規模保と合同で行い消防署に報告をした。
- ・BCP（業務継続計画）作成。感染症まん延時、また非常災害時においても継続的にサービスが提供できるよう備えている。
- ・今後は、緊急時に備えた実地的な訓練を重ねていきたい。

#### 【虐待防止・身体拘束の取組】

- ・虐待防止研修会を適宜開催。また、管理者と各事業所の児発管で虐待防止委員会を開催し、事業所での虐待防止に努めている。
- ・身体拘束の禁止も研修の中で職員に通達。虐待も含め、「風通しの良い職場」「助け合える職場」「職員全員で子どもたちを育てる場」という風土づくりを徹底してきている。

#### 【衛生・健康管理】

- ・おやつやクッキングの前の手洗い、テーブルや調理器具の消毒など衛生環境に配慮している。
- ・特にインフルエンザやコロナウイルスの流行期には学校や家庭との連絡を密にとり、利用児の健康に注意を払った。
- ・特に感染症の流行しやすい時期には、「手洗い・うがいの励行」を促す掲示を、子どもたちの目に留まりやすい工夫をしながら行った。

#### 【安全確保】

- ・サービス提供中に起きる事故や怪我を防止するために、室内及び屋外の環境の安全性について毎日点検し、鍵の二重ロックなど危険を排除するように努めていった。障がいの特性から危険な行動をとる利用児も多いので、該当児には特に注意を払って見るようにしていった。
- ・公用車ではチャイルドロックをするなどの注意をし、事故が起こらないよう安全運転に努力した。また、置き去り防止安全装置を3列シート以上の車両に配備し、車内への置き去りが無いよう配慮している。
- ・安全計画を策定し、重点的に安全対策を講じる箇所や時期を定め、職員全体で事業所における安全意識を高めていった。
- ・職員会でヒヤリハット・事故報告等の時間をもち、内容について共有し再発防止に努めた。

2024年度 ヒヤリハット・気づき報告

月・日	時間	内容	原因・対策
R6年 4月17日	16:00	おりーぶ利用児が、支援室の壁際に片づけてある長机に腰を掛けていて、職員が「隙間もあるし危ないよ」と注意したところ、その言葉に反応した他児が、わざと机を引っ張り、座っていた子はひっくり返りかけ壁と机の間に挟まる。職員がとっさに支えたので、怪我はなかった。	机には登ったり座ったりしないことを伝えているが、置き場所的に登ったりしやすかった。 繰り返し危険性を伝えると共に、収納方法を検討する。
4月22日	16:20	公園周辺の植物を採取していたおりーぶ利用児が、のどの痛みを訴えた。その直前にたんぽぽの綿毛を吹き飛ばして遊んでいたため、職員が口内を確認したり吐き出すよう促したりしたが、何も出てこず。うがいさせると「もう大丈夫」とのこと。	意図的だったかはわからないが、石や虫なども口に入れてしまうことがあるので、再度職員間で共有し、注意深く見ていく必要あり。
9月13日	16:00	古志原小の利用児数名を徒歩下校で引率。ぽっぽ駐車場近くまで帰ってきた際、後ろから車が来たことを伝えると、利用児の一人が車の前に出て足で蹴る動作をする。たまたま、小規模保の保護者だったのですぐに止まってくれ、大事には至らなかった。	利用児は、ふざけてやったつもりだったが、危険行為なので厳しく注意をし、当該の運転手のところへ謝罪に行った。今後徒歩下校の回数を増やし、安全に道路を歩行できるよう学びの機会を確保していく。
10月8日	15:40	古志原小の迎えの際、利用児をひとり乗せ忘れたまま、出発しかけていた。同乗していた職員が気づいてすぐに当該児を乗せに戻った。	子どもが乗った後の人数確認を怠っていた。古志原小の利用児は人数が多いため、必ず人数の確認を行う。送迎表と照らし合わせ人数と名前をチェックする。
10月9日	16:20	利用児に向けて、他児が虫よけスプレーを噴射し、利用児の目に入ってしまった。すぐに目を洗い保護者に連絡をした。	虫よけスプレーが、外遊びに出かけるために準備してあり、たまたま児童の手の届くところに置いていた。イライラした他児が手に取り、近くにいた本児に噴射してしまった。クールダウン中の子どもが他の子に攻撃がいかないよう目を離さないようにする。薬品の管理を徹底する。
10月16日	17:00	こぼと旧園舎で鬼ごっこをしていた利用児が、追いかけているうちに鬼が変わったことに気づけず怒り出し、近くに落ちていたソフトボール大の石を投げ	石を投げて人や建物にあたったらどうなるのか、危険性も併せて話をし、絶対にいけないことなのでもうしないということを約束させる。

		た。築山から柵を超えぼっぼ舎近くの道路まで飛んだ。	
10月25日	15:40	古志原小からの徒歩下校の際、二人の利用児が職員より先に歩き、別の道を通ってぼっぼまで帰った。	列の先頭になれなかったことに怒り、大人を追い越したとのこと。危険なので大勢で歩く際は必ず職員の後ろを歩くことを児童、職員で徹底する。
11月12日	16:05	八雲小→忌部小というルートで迎えに行く際、八雲小児童が遅れて出てきたので、忌部小の迎えの時間に5分程度遅れて向かった。校門までの坂道の途中で本児を発見。車に乗せた。	この曜日は待たされることが何度かあり、待ちくたびれた本児が勝手に帰り出したと思われる。(通常学級の児童なので担任がついていない) 学校と連携を取り、迎えの車が来るまでは待つように指導。また、時間通りに行けるような配車の工夫もできればしていく。
11月27日	15:40	イライラしていた利用児が、怒って丸椅子を投げ、ソファにいた児童の足にあたってしまった。特にけがはなかった。	関係性の良くない男児が、本児に対して嫌な関わり方をしてきたことが原因だった。そのような関係性の子が一緒にいる場ではなるべく多くの職員で見守る。
R7年 1月16日	16:00	八雲小児童の迎えを忘れており、学校から連絡が来た。30分程度待たせてしまった。	担当職員が送迎をすっかり忘れていた。送迎表を確認したらすぐにアラームをかけるようにする。
1月27日	15:00	八雲小→湖東中の迎えルートだったが、湖東中に行くのを忘れてしまい、湖東中利用者が下校、帰宅してしまった。	送迎予定表の確認不足が原因。何度も確認をする。またメモなどをして漏れがないようにする。



---

# こぼと小規模保育園

2024年度事業報告

---

## 2024 年度 こぼと小規模保育園 事業報告

11月こども家庭庁が2024年度の保育士等の人件費を前年度から10.7%引きあげると発表した。人事院勧告を踏まえた対応で、保育士の処遇の抜本的改善を目指すため、現在の制度で過去最大の引き上げ率となり、2024年4月分にさかのぼって支払われた。基本分単価の人件費分が引き上げられることで、現場の保育士の賃金が一定改善されたが、公定価格で算定されている職員の数以上に職員を雇って運営しなければならないため、職員すべてに保障することはできない。「保育士不足」の問題を解決するためにさらなる改善をしてもらいたい。

小規模は開園5年目となり、4月当初は0歳児1名、1歳児3名、2歳児6名、全員で10名の園児でスタートとなった。出生率が急速に減少し少子化が進む一方、女性の就業率は上昇している影響で1歳まで育休休暇を取られる方が増え、0歳から保育園に預けることが減少している傾向なのか、9月まで0歳児は1名からなかなか増えることがなかった。しかし、秋頃から徐々に増え始め、3月では全員で17名となった。

一時預かり事業を今年度からこぼと保育園から小規模保育園に移管し、事業が一つになったので、その子の年齢のクラスに入って一緒にみることが出来、保育もしやすくなった。保護者もいままではどちらの事業に言えばいいのか迷いがあったようだが、一緒になりどの職員でも対応することが出来て、安心して預けてもらえるようになった。親子遠足や運動会、除草作業、懇談会、レクリエーションなど行事も一緒に参加してもらい、保護者のつながりも出来た。

職員もこぼと保育園の職員だったので、行事やこぼとの人員が少ない時は抜けることが多かったので勤務体制が組みにくかったが、小規模の職員になり職員間の共通認識も持てるようになり、ローテーションも組みやすくなったのでやりやすくなった。

今年度は保護者会主催のバザーに参加し、小規模保育園のブースで野菜やパン、しじみなどを販売した。保護者と職員が一体となって準備を進め参加することで、保護者同士や職員との距離も近くなり、団結力が上がった。

保護者の方に日頃の感謝を込めて職員での夏祭りを開催し、在園児以外にもOBの子達も呼んで、ゲームコーナーや露店を出して楽しんでもらった。

令和6年度の処遇改善Ⅱの要件として、キャリアアップ研修修了が副主任保育士・中核リーダー等は2分野 or 30時間以上、職務分野別リーダー・若手リーダーは1分野 or 15時間以上に引き上げとなり、各キャリアアップ研修を全職員にとってもらうことにした。新人研修や保育実践研修にも積極的に参加した。

新卒や他の保育園から来た職員もいて、さくら・さくらんぼ保育を理解してもらうためと保育士としてのスキルアップを図るため、月に1回リズムや絵、DVD鑑賞、子どもとの関わり方など園内研修を設け、職員の質の向上を図るようにした。

## 2024年度事業報告

### こばと小規模保育園

月	園内行事	保護者会行事	その他
4	入園のつどい		
5	親子遠足 懇談会	保護者会総会 奉仕作業	歯科検診 内科検診 園内研修
6			園内研修
7	劇団風の子鑑賞 ブルーベリーレクリエーション	母親懇談会 小規模役員会	救急蘇生講習 レクリエーション 園内研修
8	七夕会 夏祭り	除草作業	園内研修
9	おじいちゃん、おばあちゃん遊びに来てね	にこにこバザー	園内研修
10	親子運動会 懇談会		園内研修
11	芋煮会 公開給食・給食懇談会		歯科検診・内科健診 保育指導訪問 園内研修
12	クリスマス会		給食指導訪問
1			園内研修
2	節分		松江市指導監査 園内研修
3	修了式 お別れ会	ごくろうさん会	

※個人面談（6月下旬～7月、つばめぐみ3月）

※1日保育参観（9月～11月）

※避難訓練・消火訓練 毎月1回

ちいぽっぼ、放デイとの合同避難訓練（8月、3月）

※誕生会、お弁当の日、身体測定 月1回

※保護者会役員会後、ちいぽっぼ役員会又は懇談会を行ない、  
役員会報告、行事について相談したり一緒に進めていった

年間目標・ ・◎一人一人の生活リズムを大切にし、安全な環境の中で安心して過ごす。  
◎保育士との信頼関係を大切にし、情緒の安定を図りながら意欲的に生活する。

<生活>

食事・ ・一定時間にミルクをしっかりと飲めるようになる。全体的になんでもよく食べおかわりができるようになる。好き嫌いがでてきて、皿を押ししたりして嫌がる姿もあるが励まされると食べる事ができる。

睡眠・ ・布団に入りトントンうをして眠れるようになる。途中で何度も泣いて目覚める児もいたが、一定時間眠ることができる。低月齢児は抱っこで寝つく。

排泄・ ・おしっこが出ると下を見たり、指さしをする。泣いて不快な気持ちを知らせる。トイレに座る児もいるがまだ排尿は見られない。

着脱・ ・自分でパンツやズボンを脱ぐ事ができる。パンツを履かせると足をパンツの穴に足を入れようとする。

<遊び>

外遊び・ ・外に行くことが分かると、自分で靴を持って来て園庭に出ようとする。しゃもじをもって鍋に砂を入れたり、砂のケーキを作ると手で壊そうとする。水道の水に触れてよく遊ぶ。

散歩・ ・ 天気の良い日には、三角公園、運動公園、古志原公園、近所などに散歩に出掛けた。自然物を見せると手をのばして触ったり、ギュッと握りしめたりしていた。

仲間・ ・ 友だちのことが気になり、友だちの遊ぶ様子をじっと見たり真似したりする。友だちの持っているものが欲しくて取り合いになる。

<認識> 保育士が言ったことが分かり、行動にうつすことができる。「バイバイ」や「やだ」など簡単な言葉で保育士に伝えようとする。

<リズム> 保育士や他児の模倣をして身体を動かして楽しんでいる。

<保護者支援> 保護者との信頼関係を大事にし、安心して預けてもらえるよう園での様子を連絡ノートや送迎時に伝えるようにする。

子どもの成長やできたことなどを伝え、共に喜ぶようにしていく。

<評価 反省> 3月には7人に増えたが、一人ひとりしっかりスキンシップをとりながら関わる事ができた。子どもの様子や姿など細かいことも、担任同士でしっかり話し合っただけで保育することができた。体調を崩す子どもが多かったので、体調管理に留意しながらさらに清潔な環境を整えていきたい。

- 年間目標・ ・◎保育士や友達と一緒に水、砂、土に触れて遊ぶ。  
◎自分でしようとする気持ちを大切に育てる。

<生活>

- 食事・ ・苦手なものがある児、汁が食べにくい児もいたが、全体的に食に対して意欲的な児が多く、年間を通してよく食べた。初めは食べられなかった児も次第に食べられる量が増え、完食できるようになる。
- 睡眠・ ・特定の保育士を求めたり、興奮したりし、なかなか入眠できない児もいるが、まとまって眠ることはできる。
- 排泄・ ・どの児も尿や便がでたことに気が付き、保育士に伝えることができる。また、トイレに行き、便座に座ってできる児もいる。
- 着脱・ ・ほとんどの児が、自分でかごから洋服を出し、着替えることができる。難しいところは保育士に手伝ってもらいながら着替える。

<遊び>

- 外遊び・ ・どの児も裸足を嫌がることなく、外に行くことも好み、園庭や旧園舎の園庭で遊ぶことを楽しむ。友達と一緒にままごと遊びを楽しむ。
- 散歩・ ・秋頃からは全員で歩いて散歩に行くことができた。自然物や斜面を求めての散歩にでかけ、楽しむ姿がみられる。
- 絵・ ・どの児も楽しんで絵を描く。意味づけをする児もいる。
- 仲間・ ・友達との関わりも増え、お互いに名前を呼び合ったり、一緒に遊んだりする姿がみられる。困っている児や泣いている児がいたら、側に寄り添い、手を繋いであげたり、声をかけたりする姿がみられるようになる。

- <認識> 保育士が伝えたことを理解して行動ができるようになる。友達や保育士の名前、自分のクラスがわかる。

- <リズム> 保育士や大きい児の模倣をして、楽しんで身体を動かす。好きなリズムを表情よく楽しむ姿がみられる。

- <保護者支援> 保護者との信頼関係を大事にし、安心して預けてもらえるよう、園での様子を連絡ノートや送迎時に詳しく伝えるようにする。悩みを抱えている保護者の話をゆっくりときくようにする。

- <評価 反省> 天気の良い日は戸外で過ごすようにしていったが、散歩にはなかなか出かけることができなかった。  
自分でできることは自分でするようにし、達成感、満足感を味わって意欲に繋げるようにした。  
一人ひとりの発達をしっかりとみていき、その児に合った手立てをしていくように心掛けていった。

## 2024年度 つばめ組（2歳児）年間総括

- 年間目標
- ・一人一人が安心して園生活を送り、自分を出せるようにする。
  - ・基本的な生活習慣の自立を目指し、周りの事を自分でしようとする。
  - ・生活や遊びの中で友だちとの関わりを持てるようにする。

### 〈生活〉

- ・食事：
  - ・全体的になんでもよく食べる姿がある。野菜や汁が食べにくい児もいたが、給食の量を調整したり、児の側について声掛けをしたりすると食べられる姿が見られる。
  - ・ほとんどの児がおかわりをして食べていた。食べる時に皿を持って食べることを意識して食べる姿もある。
- ・睡眠：
  - ・全体的に寝付くのに時間が掛かる児の姿が見られ、保育者が側にいないと寝付けない児の姿が多い。目覚めるのが早い児の姿も見られるが、目覚めるのに時間が掛かる児もいる。
- ・排泄：
  - ・ほとんどの児がトイレで排泄することが出来る。排便した時には「ウンチ出た」と伝える姿もある。散歩中もほとんどの児が道中で排泄することなく歩く。
- ・着脱：
  - ・ほとんどの児が自分のカゴから衣服を取り出して着替えることが出来る。一対一で児につかないと着替えるのに時間が掛かる時もある。
- ・清潔：
  - ・食事前や、手が汚れた時に自分で手を洗いに行く姿があった。
- ・健康：
  - ・熱や咳、鼻水が出る児の姿がある。喘息で入院する児の姿もあったが、成長するにつれて落ち着いていく。
- ・安全：
  - ・散歩中に端を歩くように伝えたと端に寄って歩く児もいれば、道路の真ん中を歩こうとする児の姿も見られた。散歩では先頭の保育者の前を歩かないように伝えたと保育者の後ろを歩く児もいれば、保育者の前を歩こうとする児の姿も見られる。

### 〈あそび〉

- ・鬼ごっこ、むっくりくまさんなどをして楽しむ姿が見られる。また、友達と会話をしながらおままごとをして楽しむ姿がある。
- ・友だち同士の関わりも多くみられるようになり、会話を楽しみながら一緒に遊ぶ姿が見られる。友だちとのトラブルがある時は気が付いた児が仲介に入ったり、保育者に伝えたりする姿がある。
- ・散歩では、長い距離も歩けるようになるが、帰る頃になると足取りがゆっくりで歩くのに時間が掛かる児の姿がある。自然物に興味があり、手に採り持ち帰る姿も見られる。かくれんぼをしたり、安全な道でかけっこをしたりして散歩を楽しむ。
- ・クッキングに興味を持っていて、エプロンを付けて楽しむ姿がみられる。クッキング中も保育者の話をよく聞いて積極的にする姿がある。
- ・旧園舎の大きいプールに入り、ワニ泳ぎやことりことりなどを楽しんでする。後半になるとイルカジャンプや顔付けなどダイナミックに遊ぶ児の姿が見られる。
- ・水が苦手なプールに入りにくい児もいる。他の児がプールから上がってから一対一で入るようにすると少しずつ入れるようになる。

#### 〈認識〉

- ・ 保育者が話したことを聞き、行動に移すことが出来る。
- ・ 保育者が行ったことを理解するのに時間が掛かる児もいる。
- ・ 自分の思いを身体で表現し、言葉で伝えようとする。
- ・ 言葉があまり喋れずジェスチャーで伝えようとする児の姿もある。

#### 〈リズム〉

- ・ リズムでは身体をよく動かして楽しみながらする。
- ・ リズム中に要求をすると、話を聞き行動に移す姿が見られる。
- ・ 全体的に歌もよく覚え、大きな声で歌っていた。

#### 〈保護者支援〉

- ・ 送迎時に一人一人の園での様子を見たり、家庭での様子を聞いたり、連絡ノートで伝えるようにする。
- ・ 一人一人の毎日の体調を観察し保護者の方から聞いたりして、健康に過ごすことが出来るようにする。

#### 〈評価・反省〉

- ・ 一人一人の児の様子を見て関わるようにし、要求をするようにした。
- ・ 午睡がしにくい児が多かった。もう少し寝るよう要求する。
- ・ 絵を描くことが少なかったなので、今後絵を描く機会を作っていきたい。

## 2024年度 たんぽぽ組（一時預り）年間総括

こばと小規模保育園

- 年間目標 ◎生活や遊びの中で友達との関りが持てるようにする  
◎生活に必要な身の回りのことを自分でしようとする  
◎自分の要求や思いを言葉やしぐさで表現できるようになる

### <生活>

- 食事 <1歳児>・好き嫌いが出てきて苦手な物が出ると食べにくい姿がある。  
・スプーンを持って食べる。  
<2歳児>・野菜が食べにくい・  
・遊び食べをするが最終的には完食するときもある。  
<3歳児>・何でもよく食べ、完食をする。  
・お代わりをする。

- 睡眠 ・一定時間眠ることができる児もいるが、1時間程度で目が覚める児もいる。  
・初めは抱っこで寝ていた児も布団に横になり眠ることができるようになる。

- 排泄 <1歳児>・尿が出るとその場で立ち、下を見る。  
<2、3歳児>・トイレで尿や便をする。時々漏れることがある。

- 着脱 <1歳児>・保育士が声を掛けると自分で服などを持ってくる。  
<2歳児>・保育士に見守られながら自分で着脱をする。  
<3歳児>・自分で着脱をすることができる。

### <遊び>

- 外遊び・・道具を持って遊ぶ姿が見られる。ごちそう作りや、水道で水遊びをする児の姿が見られる。1人で遊ぶ児もいれば、保育士と一緒に遊ぶ児もいる。追いかけてっこをして遊ぶ児もいる。

- 散歩・・各クラスに入り、散歩に出掛ける。  
自然物に目を向けて歩き、友達同士で楽しんで歩く姿がある。

- <1歳児>・バギーに乗って散歩に行く。  
目的地に着いてからは、バギーから降りて遊ぶ。

- <2歳児>・散歩の途中で尿が出ることもある。  
道路の真ん中の方へ行き歩くこともある。

- <3歳児>・よく歩く姿が見られる。

- 仲間・・友達同士で遊ぶ姿や同じ月齢の児同士で声を出して遊ぶ姿が見られる。  
小さい児を可愛がる姿が見られる。

- 絵・・絵が描きたいと保育士に伝える。楽しんで絵を描く姿が見られる。

- <認識>・保育士の言葉かけを理解し、行動に移すことができる。  
・指さしをして訴える。(1歳児)

- ・名前を呼ばれると返事をするができる。
- ・自分の気持ちを要求する。
- ・自分の気持ちを保育士や友達に伝えることができる。

<リズム>・自分がやりたいリズムがあると保育士に伝える。(2歳児)

- ・楽しんでリズムをする。
- ・保育士や友達の模倣をして、身体を動かすことができる。
- ・初めはリズムをせずに見ているだけの児もいたが、後半は楽しんでリズムをするようになった。

<保護者支援>・安心して預けてもらえるように、連絡ノートや口頭で丁寧に伝えていくようにする。

- ・家庭での悩みや相談があった時には、丁寧に応えていくようにする。

<評価 反省>・それぞれの年齢にあったクラスに入り楽しんで活動をする姿が見られた。

- ・一対一での関りを丁寧に行うようにすることができた。
- ・自分で出来るところは自分ですることができるようにしていった。

## 2024年度 苦情受付

こばと小規模保育園

番号	受付月日	相談者	苦情・要望内容	解決状況
1	10月4日	あひるぐみ保護者	迎えの時職員に、こばと保育園の職員の対応が悪い。 子どものこと、母親の服装、小規模の悪口などを言われ、気分が悪いと泣きながら訴えてこられる。	職員からも苦情の情報収集し、保育相談役に報告。 10/17に3者面談を行ない、話しを聞く。 改善していくことを伝え、納得される。すぐにこばと保育園に連絡し対応してもらうようにする。
2	11月14日	近所の方	午前、散歩の帰り道に階段を登っていた時、階段横の家の方から「フェンスが古いからあぶない」と言われる。 子どもも敷地内に入ってしまう。	すぐに昼に謝罪しに行く。 職員会を開き、家の敷地内に入らないよう声掛けをしたり、その階段を通らないよう共通認識をもつ。
3	12月18日	つばめぐみ保護者	連絡ノートに迎えの時子どもが排泄をしていたら、放課後デイの子ども達が戸を開けて入ってきて手を洗い始めた。子どもがはずかしいと言って排泄をやめてしまった。 散歩の時も、パンツで尿が出た時の保育士の対応が気になり、手紙を出してほしい。	すぐに職員会を開き、対策を考える。 保護者に、直接お話しをして対策を考える事を伝える。パーテーションで仕切ったり、窓もカーテンを付ける。散歩先では、トイレまで連れて行って着替えたり、タオルを腰に巻いて着替えるなどして対応することを園全体に手紙を出して伝える。
4	1月20日	こばと保育園保護者 (元小規模保護者)	以前小規模保育園に通っていた時に強制的に2年間保育カレンダーを買わされていた。 2022年、7:00に登園したら誰もいなく、保育士が15分に来られ、謝罪はあったが、その後暖房を入れたり、掃除をし始め、子どもを受け取ってもらえなかった。	職員で話し合いをして、保護者の方と連絡を取り、今後強制的に保育カレンダーを売らないようにし、保育時間もみんなで共通認識をし、謝罪すべきだったことを伝える。

